

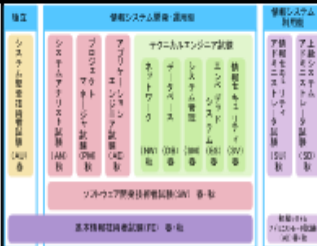
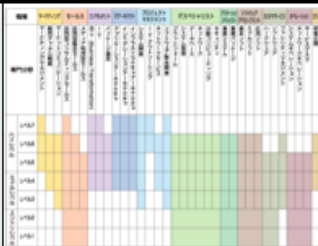
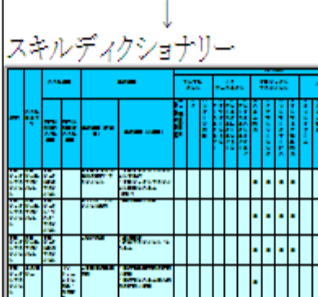
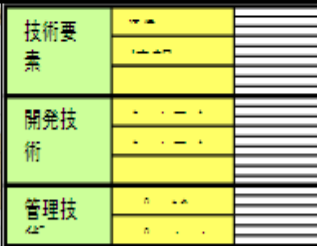
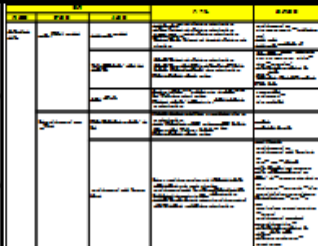
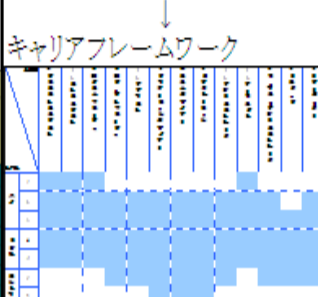
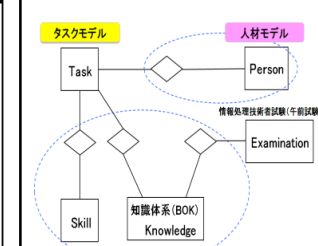
「i コンピテンシ ディクショナリの概要」



一般社団法人iCD協会

i コンピテンシ ディクショナリとは

スキル標準と情報処理技術者試験

	情報処理技術者試験	ITスキル標準 (ITSS)	組込スキル標準 (ETSS)	情報システムユーザー スキル標準 (UISS)	共通キャリア・スキルフレームワーク (第一版・追補版) (CCSF)
公開時期	1969年	2002年12月	2005年5月	2006年6月	2008年10月・2012年3月
実施主体	IPA/情報処理技術者試験センター(JITEC)	IPA/ITスキル標準センター	IPA/ソフトウェア・エンジニアリング・センター(SEC)	日本情報システムユーザー協会(JUAS)	IPA/HRDイニシアティブセンター
目的・位置づけ	産業界の情報化人材に必要な知識、技術、能力を明確にし、業務を遂行するために必要な知識、技術、能力を保有しているかを明確化する。	各種IT関連サービスの提供に必要なとされる能力を明確化・体系化した指標であり、産学におけるITサービス・プロフェッショナルの育成・教育のために有用な共通枠組み。	組込ソフトウェア開発に関する最適な人材育成、人材の有効活用を実現するための指標。	情報システムを活用するユーザー企業/組織において必要となるスキルをシステムの企画・開発から保守・運用・廃棄に係るまでのソフトウェアライフサイクルプロセスに基づき体系化した指標。	3つのスキル標準について、人材類型と人材像を共通で定義、試験のレベルと紐づけたもの(第一版) 3つのスキル標準をタスク・モデル、スキル・モデル、人材モデルで整理しなおし、共通化したもの(追補版)
主とする対象	ベンダー、ユーザー	ベンダー	組込エンジニア	ユーザー	ベンダー/ユーザー/組み込みエンジニア
切り口	人材(試験職種)	人材(キャリアフレームワーク)	技術(スキルフレームワーク)	組織機能と業務	タスク・スキル・人材像
構造	 各試験区分毎のスキル標準 情報処理技術者スキル標準 システムアナリスト 1. 概 要 1 2. 試験概要 4 3. 大まかなスキル 10 4. 試験科目 21 2003年12月第1版 2005年10月第2版 IPA/HRDイニシアティブセンター 情報処理技術者試験センター	 スキルディクショナリー 	 キャリアフレームワーク 	 キャリアフレームワーク 	 タスクモデル 人材モデル 情報処理技術者試験(午前試験) Examination 知識体系(BOK) Knowledge スキルモデル ITSS UISS ETSS タスクモデル スキルモデル 人材モデル 「タスクモデル」 タスクを分解し、タスクの要素となる「タスク」を定義する 「スキルモデル」 タスクを分解し、タスクの要素となる「スキル」を定義する 「人材モデル」 タスクを分解し、タスクの要素となる「人材」を定義する CCSF

3 スキル標準の改訂と展開

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 ~

ITSS

初版

Ver.2

Ver.3

Ver.3 2011

ETSS

初版

ETSS2008

UISS

初版

Ver.2

Ver.2.2

CCSF

第一版

追補版

i コンピテンシ ディクショナリ

試用版

2014/7/31

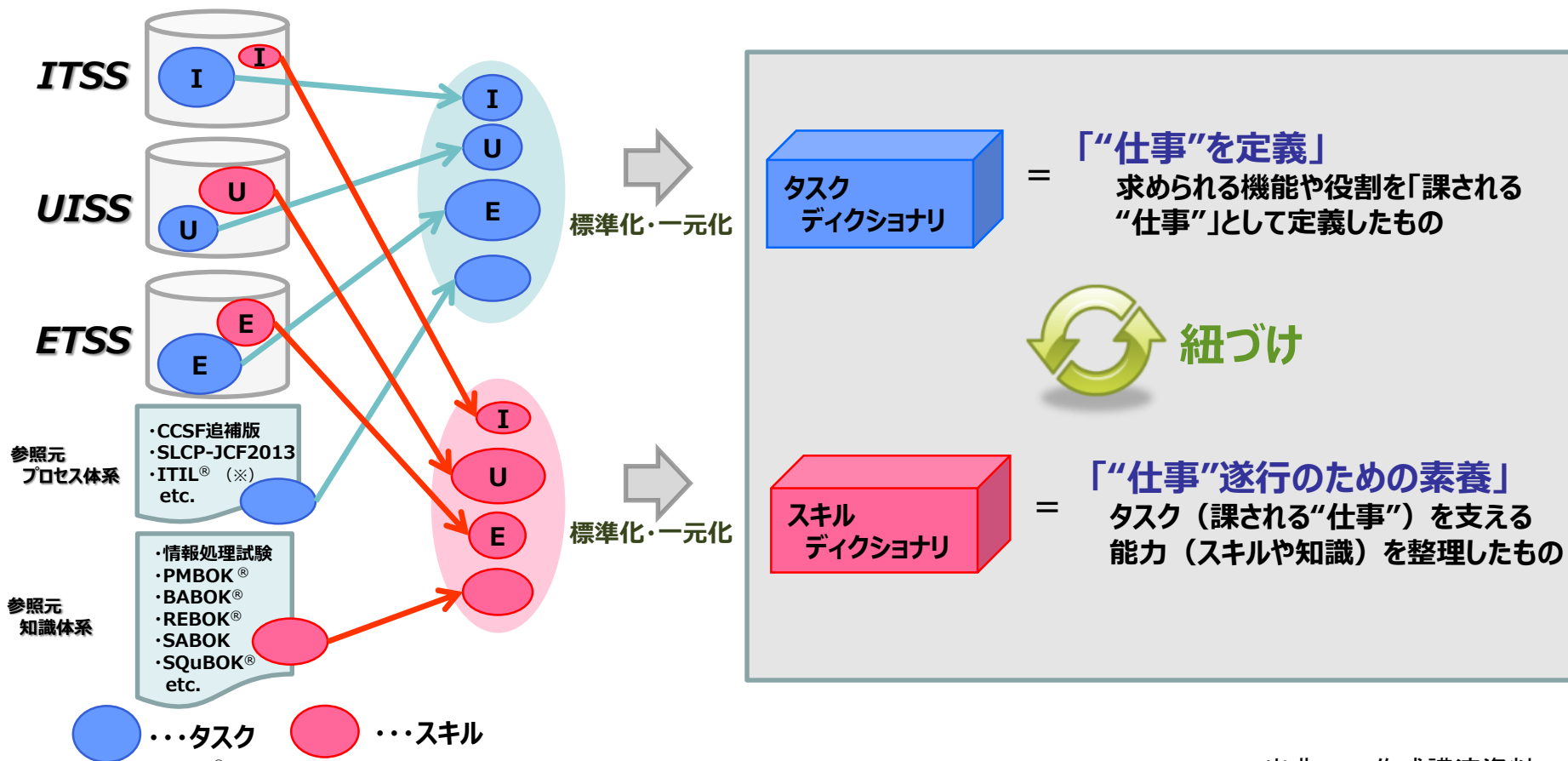
iCD

2015/6/30

2018年8月 i コンピテンシ ディクショナリ2018 公開 !

i コンピテンシ ディクショナリ (iCD) とは

i コンピテンシ ディクショナリ (iCD) は、企業においてITを活用するビジネスに求められる業務（タスク）と、それを支えるIT人材の能力や素養（スキル）を「タスクディクショナリ」、「スキルディクショナリ」として体系化したもの。
IPAは、2014年7月31日にiCDの試用版を、2015年6月30日にその正式版となる「iCD2015」を公開。毎年更新を重ね、2018年8月17日に「iCD2018」を公開。

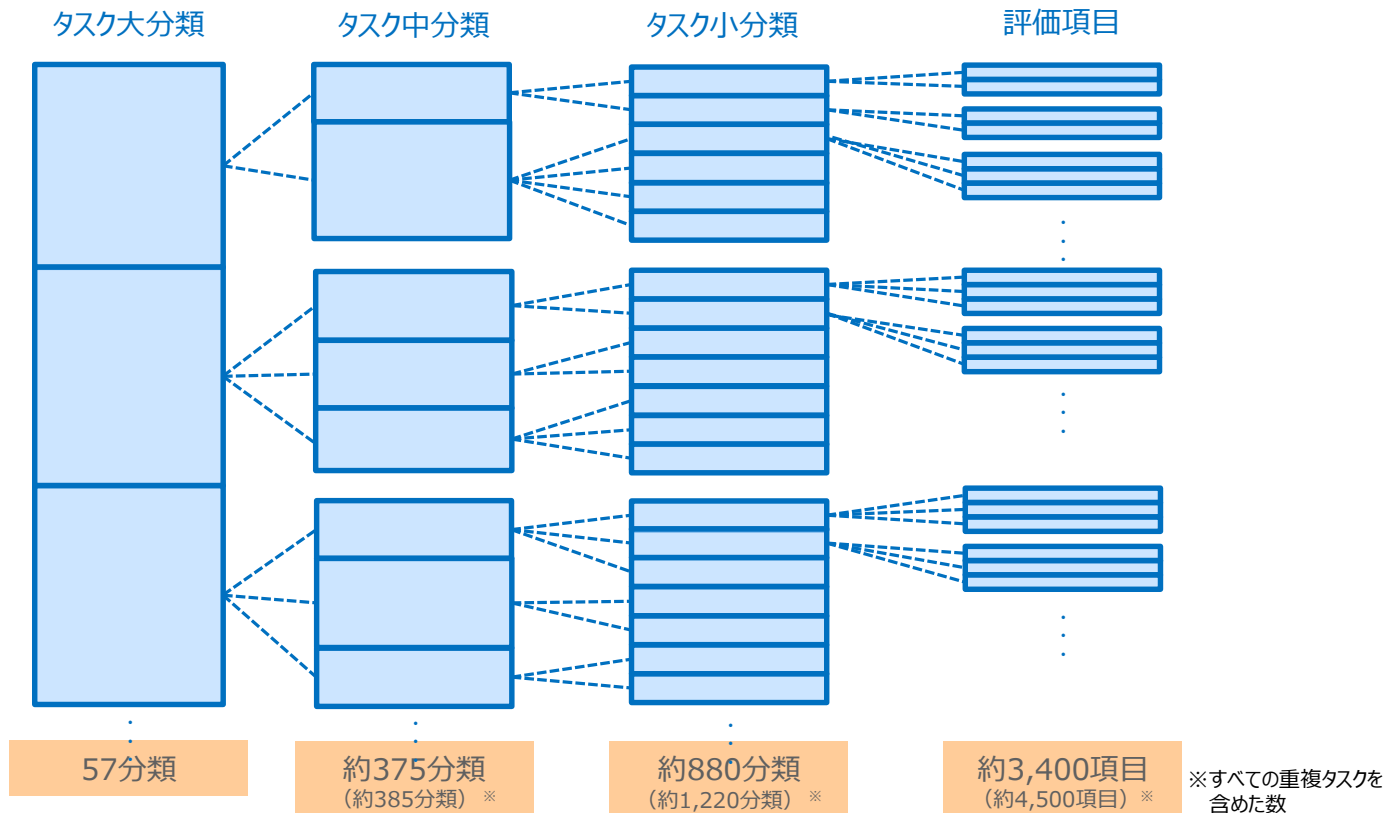


(※) ITIL® is a Registered Trade Mark of AXELOS Limited

タスクディクショナリ（１）

定義

「課される“仕事”」：組織、個人に求められる機能や役割。４階層のモデルで整理、体系化したもの



特色

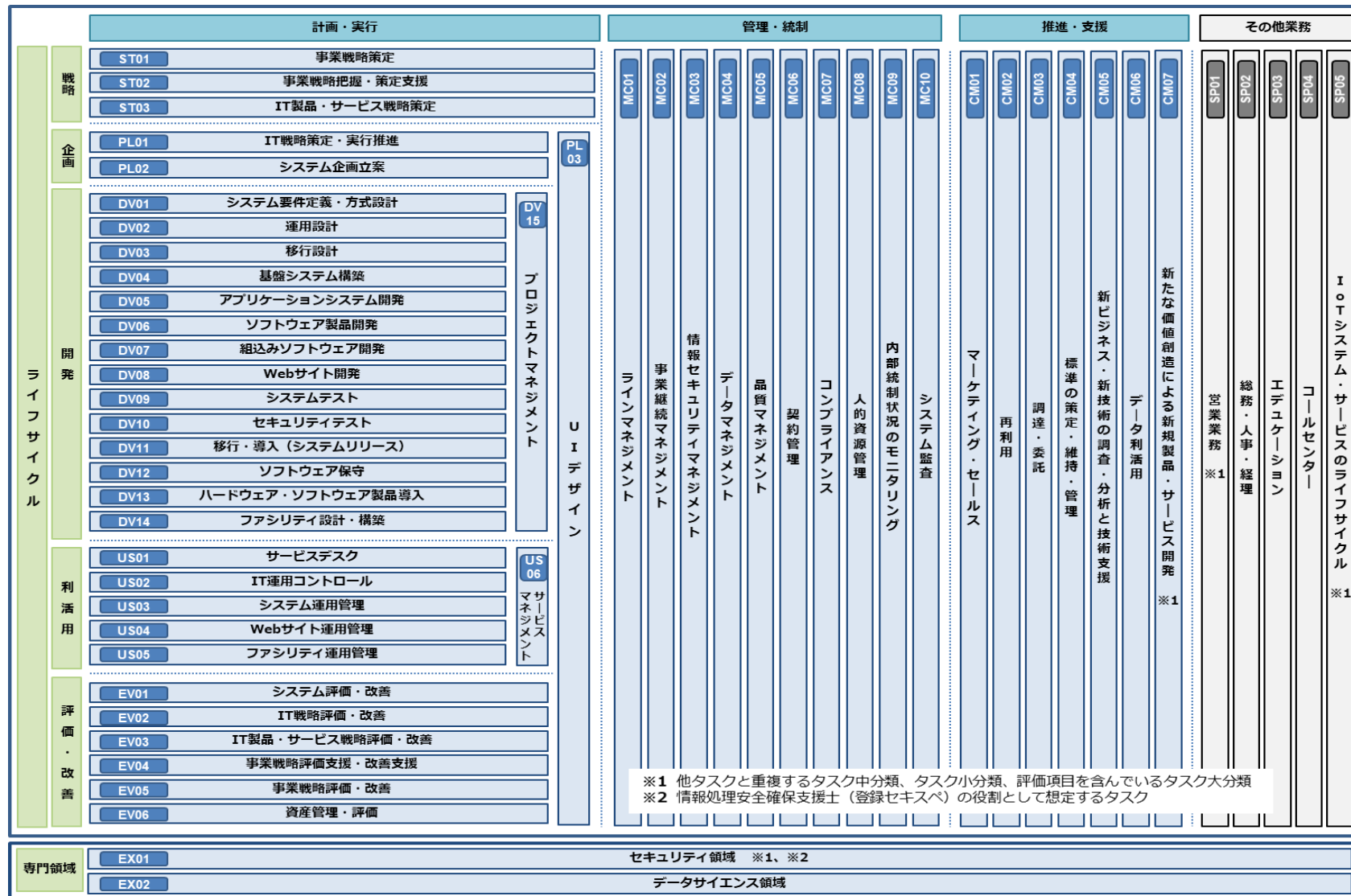
- 1) ITビジネスにかかわる主要プロセス体系（右欄：参照元）との参照性を高め、MECEに整理
- 2) ビジネスモデル、業態、開発手法等の観点で、必要なタスクセットをモデル化（タスクプロフィール）
- 3) 個人がタスク遂行実績を評価する項目（評価項目：約3,400項目）を付加
- 4) ニーズに対応しタスクを強化（協力：CSAJ、FISA、KSK）

参照元

- ・CCSF（第一版・追補版）
- ・SLCP-JCF 2013
- ・ESPR Ver.2.0
- ・ITIL® 2011 Edition ほか

タスクディクショナリ（２）

タスク構成図



タスクディクショナリ（3）

タスク一覧(抜粋)

タスク大分類	タスク中分類	タスク小分類	評価項目
アプリケーションシステム開発	ソフトウェア要件定義	機能要件と非機能要件の定義	業務の進め方や業務同士の連携等、ビジネスプロセスに関する要件を定める
			ビジネスプロセス単位の機能要件を定める
			ビジネスプロセス単位の性能、信頼性、使用性、効率性、保守性、移植性等の非機能要件を定める
			検討結果と成果物に基づき、プロセスモデルを作成する
		インタフェース要件の定義	データの受け渡しを行う他の業務および受け渡しを行うデータを抽出する
			データの受け渡しの方向（入力、出力、入出力）、手段、方法、タイミングを検討する
			バックアップ、リカバリに関するデータファイル保全方式を検討する
			サブシステム間や他システムとのインタフェースの要件を定める
			ユーザビリティを考慮してユーザインタフェースの要件を定める
		概念データモデルの作成	システム化対象範囲のすべてのデータを分析し、管理すべきデータを抽出する
			ビジネスルールを踏まえて、システム化対象範囲のデータ構造をER図にまとめる
		ソフトウェア要件の評価	データ（エンティティ）とビジネスプロセス（機能）との関連をCRUD図にまとめ、データライフサイクルを検証する
			システム要件およびシステム方式設計への追跡可能性を評価する
			システム要件との外部一貫性を評価する
			ソフトウェア要件の内部一貫性およびテスト可能性を評価する
		パッケージ利用時のフィット&ギャップ分析	ソフトウェア方式設計の実現可能性を評価する
			運用および保守の実現可能性を評価する
			機能要件に対するパッケージ機能の網羅性を検証する
			外部インタフェース要件に対するパッケージの外部インタフェースの網羅性を検証する
			概念データモデルに対するパッケージデータモデルの適合性を検証する
			機能、外部インタフェース、データ構造の適合性と網羅性の検証結果を評価する
			ビジネスでの活用の視点から、データサイエンスの活動の課題を次期のプロジェクトにフィードバックする

タスクディクショナリ（４）

◆ タスク評価の診断基準例

診断レベル	診断基準
L4	他者を指導できる、またはその経験あり
L3	独力で実施できる、またはその経験あり
L2	サポートがあれば実施できる、またはその経験あり
L1	トレーニングを受けた程度の知識あり
L0	知識、経験無し

◆ タスク別レベル判定の例

個人の評価項目別の自己診断結果

タスク大分類	タスク中分類	タスク小分類	評価項目	診断結果	平均
顧客の事業戦略策定	要求（構想）の確認	...	...	レベル0	0.67
			...	レベル1	
			...	レベル1	
		...	...	レベル3	2.7
			...	レベル3	
			...	レベル2	
IT製品・サービス戦略策定	市場動向の調査・分析・予測	...	...	レベル3	2.3
			...	レベル2	
			...	レベル2	
		...	...	レベル3	3.3
			...	レベル3	
			...	レベル4	
IT製品・サービス戦略の策定	IT製品・サービス戦略の策定	...	...	レベル4	4.0
			...	レベル4	

タスク別
レベル判定基準

平均0.5以上→レベル1
平均1.5以上→レベル2
平均2.5以上→レベル3
平均3.5以上→レベル4

個人のタスク小分類別のレベル判定結果

タスク大分類	タスク中分類	タスク小分類	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
顧客の事業戦略把握	要求（構想）の確認	...	●			
		...			●	
IT製品・サービス戦略策定	市場動向の調査・分析・予測	...		●		
		...				

組織のタスク小分類別のレベル判定結果

タスク大分類	タスク中分類	タスク小分類	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
顧客の事業戦略把握	要求（構想）の確認	...	3	2	0	1
		...	2	1	4	1
IT製品・サービス戦略策定	市場動向の調査・分析・予測	...	2	1	4	1
		...	2	1	4	1
	IT製品・サービス戦略の策定	...	1	1	2	1
		...	1	1	2	3
		...	2	2	1	2

集計

タスクディクショナリ（５）

タスクプロフィール × タスク 対応表（抜粋）

タスク大分類	タスク中分類	タスク小分類	ビジネスタイプ別								開発対象別					開発手法別			
			-								-					-			
			システム受託開発	ソフトウェア製品開発	組込みソフトウェア開発	Webサイト構築・運用	システム運用サービス (運用業務受託)	システム運用サービス (データセンタ運営)	ITコンサルティング	アプリケーションシステム	基盤システム	ソフトウェア製品	組込みソフトウェア	Webサイト	ウォーターフォール	アジャイル	ハイブリッド		
			A-010-020	A-010-030	A-010-040	A-010-050	A-010-060	A-010-070	A-010-080	A-010-090	A-010-100	A-010-110	A-010-120	A-010-130	A-010-140	A-010-150	A-010-160	A-010-170	A-010-180
事業戦略把握・策定支援	要求(構想)の確認	経営要求の確認							◎										
	新ビジネスモデルへの提言	経営環境の調査・分析と課題の抽出							◎										
	事業戦略の実現シナリオへの提言	業界動向の調査・分析 ビジネスモデル策定への助言 実現可能性の確認 全社戦略の展開における活動・成果指標の設定 課題とリスクの洗い出し 超概算予算の算出							◎										
IT製品・サービス戦略策定	市場動向の調査・分析・予測	市場機会の発見と選択 ターゲット市場のビジネスチャンス分析	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	IT製品・サービス戦略の策定	ビジネス機会の分析 新規製品・サービスの企画 既存製品・サービスのロードマップ更新	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
IT戦略策定・実行推進	基本方針の策定	現状分析・環境分析							◎										
	IT化計画の策定	IT基本方針の策定							◎										
		IT中期計画の作成								◎									
		IT基盤戦略の策定								◎									
		事業部門のIT化計画の作成								◎									
	IT戦略実行マネジメント	IT基盤計画の作成 全体計画の策定							◎										
		IT戦略の理解とプログラムの定義 プログラム戦略マネジメント 実行組織の確立 モニタリング アセスメントマネジメント プログラムリスクへの対応 コミュニティマネジメント							◎										
システム企画立案	システム化構想の立案	システム化構想基本方針の策定	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		現行業務・システムの調査分析	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		新業務の全体像把握と評価指標の設定	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		投資規模の策定	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		システム化構想の成案化	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		システム化構想の支援	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	システム化計画の策定	システム化計画におけるプロジェクト計画の策定	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

組み合わせにより、目的により近い
タスクセットを探すことが可能に

タスクディクショナリ（7）

タスクプロフィール（2）

■用途 役割別

自組織の役割定義（タスクの分担）を定める際に参考となる、役割毎のタスクセット（タスクの集合体）

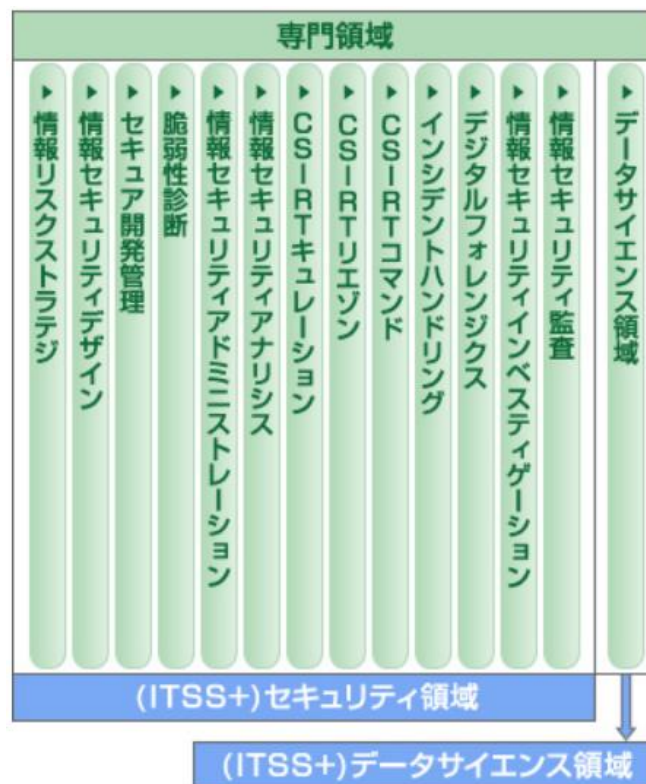
役割別			
▶ ITストラテジプランニング ▶ ビジネスリレーションシップマネジメント ▶ テクニカルマネジメント ▶ ビジネスストラテジプランニング ▶ 情報ストラテジプランニング	▶ ビジネスアナリシス ▶ プロジェクトマネジメント ▶ ITアーキテクチャデザイン ▶ アプリケーションデザイン ▶ テクニカルエンジニアリング ▶ ITサービスマネジメント ▶ Webプロデュース	▶ ストラテジックプランナ ▶ ビジネスプロデューサ ▶ プロジェクトディレクタ ▶ システムコンサルタント ▶ ITアーキテクト ▶ ITマイスタ（ネットワーク） ▶ ITマイスタ（データベース） ▶ ITマイスタ（セキュリティ） ▶ ITマイスタ（プラットフォーム） ▶ ITマイスタ（アプリケーション） ▶ ソリューションセールス ▶ システムコンシェルジュ	▶ プログラムマネジメント ▶ 情報セキュリティ統括 ▶ DR/BCP ▶ リスクマネジメント ▶ システム監査 ▶ 人材開発 ▶ アウトソース統括 ▶ ラインマネジメント ▶ マーケティング ▶ セールス ▶ 総務 ▶ 人事 ▶ 経理・財務 ▶ 法務 ▶ 購買・調達 ▶ 監査 ▶ 教育・研修
戦略的職務	企画・開発・運用職務	中小規模ビジネス推進	特定職務

タスクディクショナリ（８）

タスクプロフィール（３）

■用途 専門領域

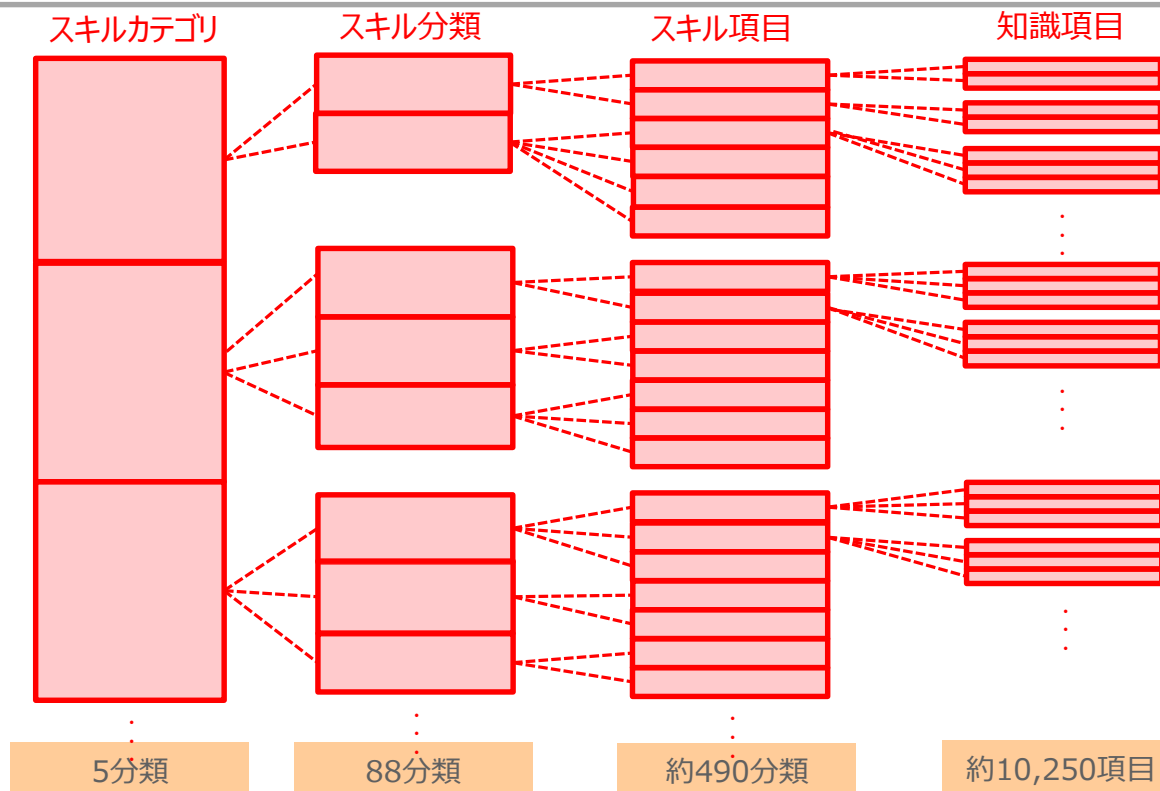
専門的な業務の役割の観点により、分割した14の専門領域



スキルディクショナリ（１）

定義

「タスク遂行のための素養」：タスクを支える能力（スキルや知識）を体系化したもの。
スキル3階層と知識項目から構成される。



参照元

参照元	小分類数	知識項目数
情報処理試験	100	723
ITSS	501	2,827
ITS	76	359
UISS	55	1,303
ETSS	46	273
J07	152	3,147
BABOK®	23	526
CBK	10	51
ITIL®	73	381
PMBOK®	10	364
REBOK®	18	112
SABOK	120	634
SQuBOK®	103	1,348
SWEBOK	52	453
SSUG	20	97
SecBoK	64	895
CAIS BOK	12	132
合計	1,506	14,252

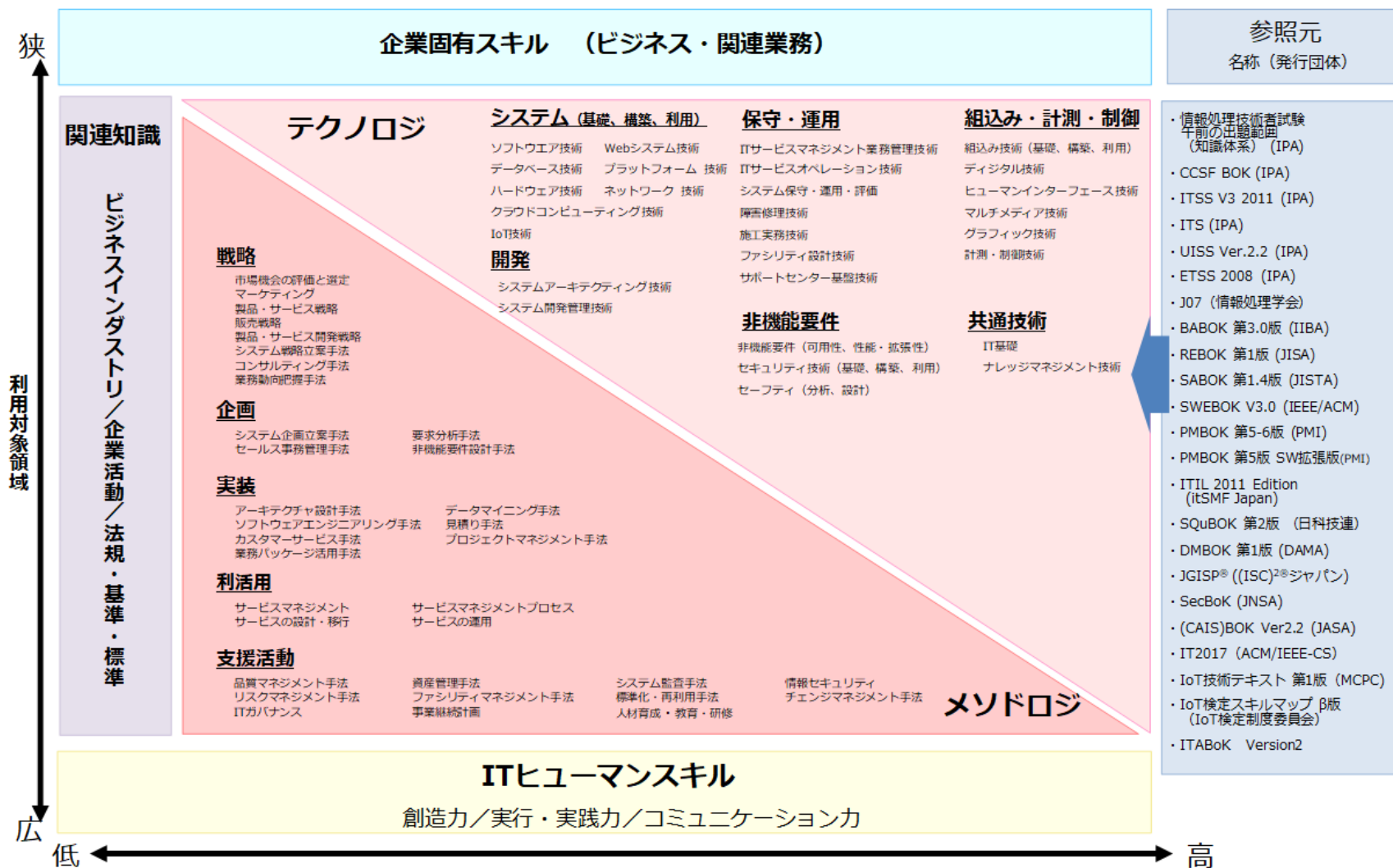
特色

- 1) IT業務に必要なスキルと知識を、主要な参照元の知識項目に基づき網羅的に構造化して提示
- 2) スキルカテゴリは、「テクノロジー」「メソドロジー」「関連知識」「ITヒューマンスキル」「企業固有スキル（ユーザ領域）」の5分類から構成
- 3) 情報処理試験「午前（の試験）出題分野」に準じた整理体系

注）参照元より抽出した小分類、知識項目は各々の重複を整理したため、スキルディクショナリ上の数は減っている

スキルディクショナリ（２）

スキル構成図



スキルディクショナリ（３）

スキル一覧(抜粋)

スキルカテゴリ	スキル分類	スキル項目	知識項目 コード	知識項目
メソドロジ	(実装) 見積り手法	規模の見積り手法	K001	スケジュール最適化（クリティカルパス、PERT、ガントチャート等）
			K002	パラメトリックモデル法
			K003	ファンクションポイント法（FP試算法、FP概算法、IFPUG法）
			K004	プログラム規模見積り（LOC法）
			K005	ボトムアップ見積り
			K006	規模の見積り（LOC/Function Point/COCOMO等）
			K007	係数見積り（基準値法、COCOMO）
			K008	経験法
			K009	類推見積り（累推法、デルファイ法）
		コストの見積り手法	K001	トップダウンコスト見積の実施
			K002	プロジェクトマネジメント・ソフトウェア
			K003	ベンダ入札の分析
			K004	ボトムアップ見積り
			K005	リスク分析
			K006	機能分析
			K007	係数見積り
			K008	見積ツールの活用と実践
			K009	見積り
			K010	資源単価
			K011	品質コスト
			K012	予備設定分析
			K013	類推見積り
	(支援活動) 品質マネジメント手法	プロダクトのレビュー手法	K001	CBR（Checklist Based Reading）
			K002	PBR（Perspective Based Reading）
			K003	アドホックレビュー
			K004	インスペクション
			K005	ウォークスルー
			K006	チームレビュー
			K007	デザインレビュー（設計審査）
			K008	パスアラウンド
			K009	ピアデスクチェック
			K010	ピアレビュー
			K011	ペアプログラミング
			K012	ラウンドロビンレビュー
			K013	レビューのマネジメント
			K014	レビューの技法
			K015	レビュー計画
			K016	レビュー方法

スキルディクショナリ（４）

スキル熟達度判定基準

スキルディクショナリ（ITヒューマンスキルを除く）のスキル熟達度の判定基準の例示。

レベル１～４までは各スキル項目の熟達度の判断に適するようにカテゴリ別に定められている。

レベル５以上は、カテゴリによらず共通のレベル定義となっている。

レベル 7	業界をリードし市場への影響力があるレベルにある		
レベル 6	業界に貢献し認知されるレベルにある		
レベル 5	所属団体・組織内で貢献し認知されるレベルにある		
レベル 4	非機能要件を考慮して最適化できる、 最適解が出せる／ 定石外しができる／ 高度情報処理試験に合格するレベル	最適な手法を使いこなす／ 最適な手法を選択できる／ 手法を状況に応じて自在に駆使できる	関与する業種・業務の 上級管理者に対しあるべき姿に ついて議論できる
レベル 3	機能要件が作成できる／ 自立してある限定条件で仕事ができる	課題に応じて手法の使い分けができる ／ 現場にて手法を活用し結論を 導いた事がある	関与する業種・業務のIT領域の課題点に 対し解決策を提案した事がある
レベル 2	指示があると使える、活用できる／ 実装経験がある	当該手法で分析できる／ メソドログを指導下で使える	関与する業種・業務のIT領域の 課題点を知っている
レベル 1	技術内容について 講義などを受講し知っている／ 知識がある	手法内容について 講義などを受講し知っている／ どんなものか知っている、言える／ テキストで知っている	関与する業種・業務がどんなものか 知っている、言える／ 有報などの公開情報で知っている
カテゴリ	テクノロジー	メソドログ	関連知識

スキルディクショナリ（５）

ITヒューマンスキルの構成： 3つの分類

実行・実践力

効果を上げるために、実行・実践環境や状況を適切に捉える能力

俯瞰力

深耕力

効果的継続の実行と新しい取り組みや新領域へ挑戦する能力

革新力

継続力

創造力

状況を認知して問題を発見し、見極め、解決案を策定する
「価値創造プロセス」を着実に遂行する能力

問題発見力

問題分析力

仮説設定力

論理思考力

概念化力

複雑な状況や問題に対して、論理的思考により
概念の形成、判断の構築、命題設定を行う能力

コミュニケーション力

情報の獲得や更なる情報の要求や内容の確認、他者へ情報提供
他者に影響を与えたり協働への引導する能力

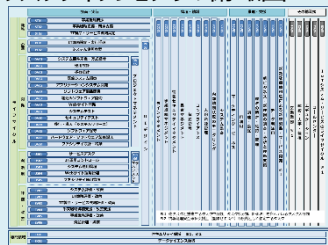
相手の考えを理解する力

自分の考えを伝える力

共感を呼ぶ力

i コンピテンシ ディクショナリの構成

タスク構成図
タスクディクショナリの俯瞰図



A hierarchical tree diagram showing the structure of the Task Dictionary. It starts with 'Task Major Classification' at the top, branching into 'Task Medium Classification', then 'Task Minor Classification', and finally 'Evaluation Items'.

タスクプロフィール

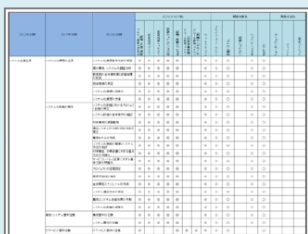
タスクの用途や、目的別に
参照できるインデックス集



A table listing various tasks categorized by their purpose and objectives, serving as an index for the task profiles.

タスクプロフィール
×タスク対応表

各プロフィールに紐づくタスクセット
を参照できる対応表



A large table mapping specific task profiles to their corresponding sets of tasks.

タスクディクショナリ

タスク一覧

タスク大分類

組織(に求められる機能)

タスク中分類

組織(の業務)

タスク小分類

組織/個人(の業務)

評価項目

個人(の業務の評価項目)

スキルディクショナリ

スキル一覧

スキルカテゴリ

(スキル分類)

スキル分類

(スキル分類)

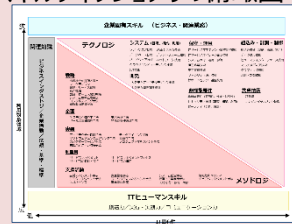
スキル項目

個人(に求められる能力)

知識項目

個人(に求められる知識)

スキル構成図
スキルディクショナリの俯瞰図



A hierarchical tree diagram showing the structure of the Skill Dictionary. It starts with 'Skill Category' at the top, branching into 'Skill Classification', then 'Skill Item', and finally 'Knowledge Item'.

職種一覧

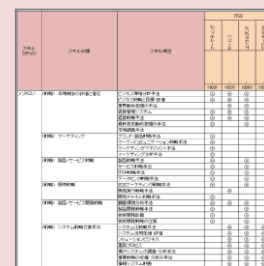
代表的職種を定義した表



A table defining representative jobs, such as 'Software Engineer' and 'System Administrator'.

職種×スキル対応表

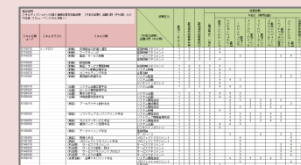
職種とスキルの対応表



A large table mapping specific jobs to the skills required for those jobs.

情報処理技術者試験等
×スキル対応表

午前試験出題分野と
スキルの対応表



A table mapping specific IT exam topics to the skills tested in those exams.

タスクスキル クロスリファレンス

タスク × スキル 対応表 (抜粋)

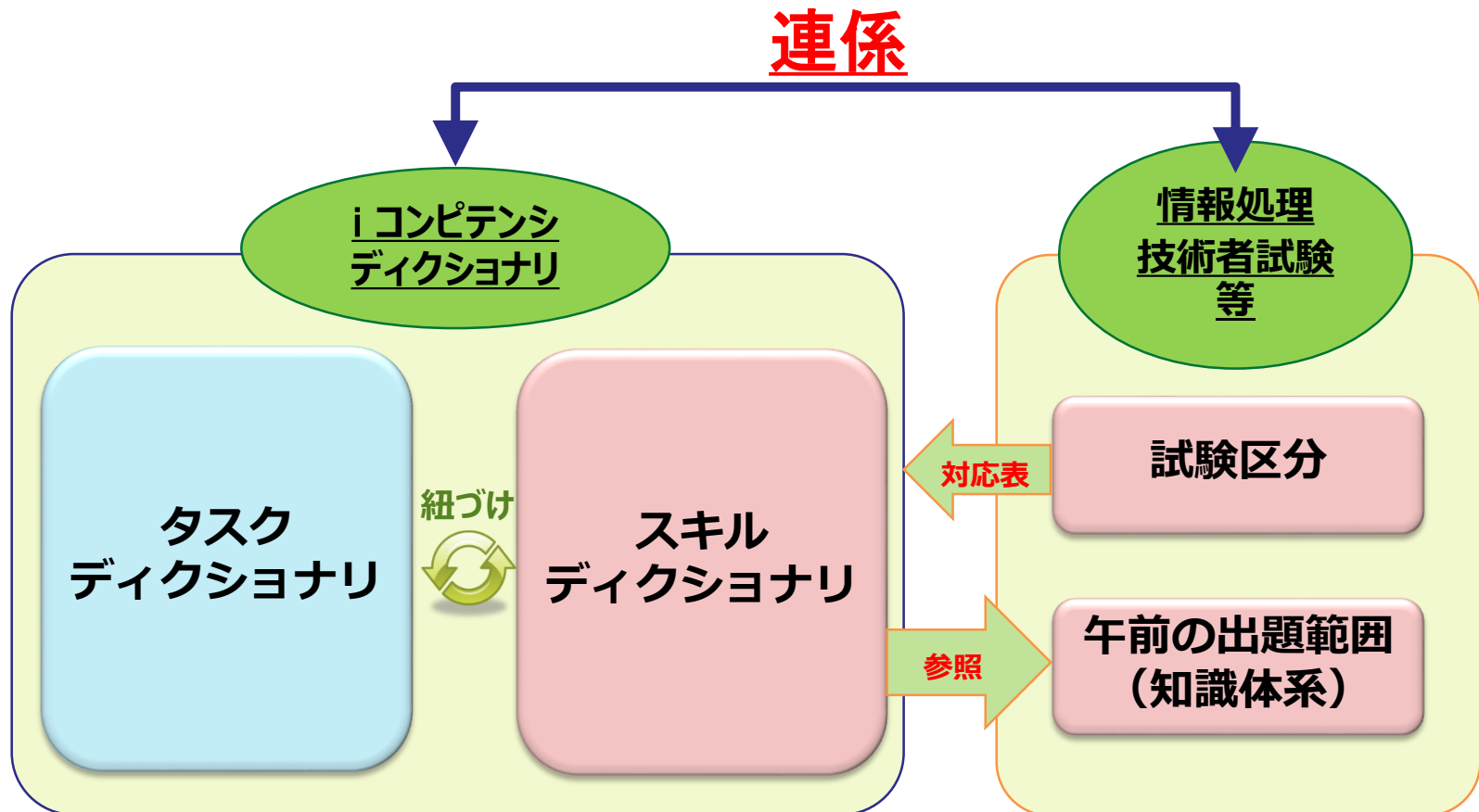
- タスク=目標、ゴール達成にむけて、個人が準備すべきこと(スキル)が一目で分かる
- ※ 基礎となる紐付けのみを示している参照情報のため、必要に応じて確認する

				スキル項目コード	S110010 010	S110010 020	S110010 030	S110010 040	S110010 050	S110010 060	S110010 070	S110020 010	S110020 020	S110020 030	S110020 040	S110030 010	S110030 020	S110030 030	S110030 040
				スキルカテゴリ	メダロ ジ	メダロ ジ	メダロ ジ	メダロ ジ	メダロ ジ	メダロ ジ	メダロ ジ	メダロ ジ	メダロ ジ	メダロ ジ	メダロ ジ	メダロ ジ	メダロ ジ	メダロ ジ	メダロ ジ
				スキル分類	(戦略)市場機会の評価と選定	(戦略)市場機会の評価と選定	(戦略)市場機会の評価と選定	(戦略)市場機会の評価と選定	(戦略)市場機会の評価と選定	(戦略)市場機会の評価と選定	(戦略)市場機会の評価と選定	(戦略)マーケティング	(戦略)マーケティング	(戦略)マーケティング	(戦略)マーケティング	(戦略)製品・サービス戦略	(戦略)製品・サービス戦略	(戦略)製品・サービス戦略	(戦略)製品・サービス戦略
タスク小分類コード	タスク大分類	タスク中分類	タスク小分類	スキル項目	ビジネス環境分析手法	ビジネス戦略と目標・評価	業界動向把握の手法	経営管理システム	経営戦略手法	最新技術動向把握の手法	市場調査手法	ブランド・製品戦略手法	マーケティング・コミュニケーション戦略手法	マーケティングマネジメント手法	マーケティング分析手法	製品戦略手法	サービス戦略手法	ITSM戦略手法	データセンタ戦略手法
ST-010-010-010	事業戦略把握・策定支援	要求(構想)の確認	経営要求の確認			◎			◎										
ST-010-010-020			経営環境の調査・分析と課題の抽出	◎	◎	◎	◎	◎											
ST-010-020-010		新ビジネスモデルへの提言	業界動向の調査・分析	◎	◎	◎	◎	◎	◎										
ST-010-020-020			ビジネスモデル策定への助言	◎	◎		◎	◎	◎										
ST-010-030-010		事業戦略の実現シナリオへの提言	実現可能性の確認		◎		◎		◎										
ST-010-030-020			全社戦略の展開における活動・成果指標の設定		◎				◎										
ST-010-030-030			課題とリスクの洗い出し		◎	◎	◎												
ST-010-030-040			超概算予算の算出		◎														
ST-020-010-010	IT製品・サービス戦略策定	市場動向の調査・分析・予測	市場機会の発見と選択													◎	◎	◎	◎
ST-020-010-020			ターゲット市場のビジネスチャンス分析													◎	◎	◎	◎
ST-020-020-010		IT製品・サービス戦略の策定	ビジネス機会の分析													◎	◎	◎	◎
ST-020-020-020			新規製品・サービスの企画													◎	◎	◎	◎
ST-020-020-030			既存製品・サービスのロードマップ更新													◎	◎	◎	◎
PL-010-010-010	IT戦略策定・実行推進	基本方針の策定	現状分析・環境分析																
PL-010-010-020			IT基本方針の策定																

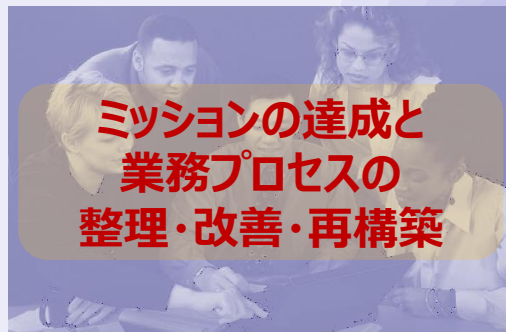
情報処理技術者試験との関係

情報処理技術者試験・情報処理安全確保支援士試験

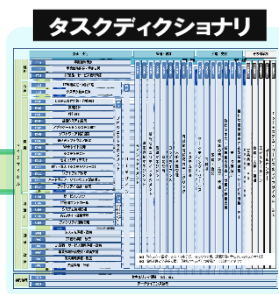
- 情報処理技術者試験等 試験区分とスキルディクショナリの対応表
- 情報処理技術者試験等 午前の出題範囲(知識体系)をスキルディクショナリにて参照



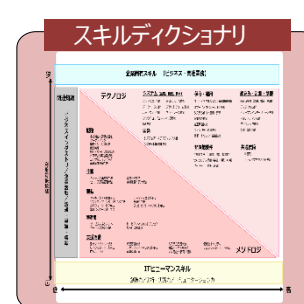
自組織ビジネス目標（経営戦略）



参照



iCD
i Competency Dictionary



活用

iCD海外連携状況

iCDグローバル展開は、様々なコラボレーション活動を通じて進んでいます

- ・2017年9月4日相互協力協定締結
→比較共同調査開始

2017/9/5 日刊工業新聞一面掲載



- コラボレーションを行っている団体
⇒10団体

- iCDを利用している国
⇒28カ国

- iCD活用システムを利用している国
⇒1カ国



- ・国際会議にてiCDのプレゼンテーション
- ・iCDについてのIEEE投稿論文発表



2015:ATD@台湾



2018:IEEE@アルゼンチン



- ・2016/4 相互協力協定締結
- ・2017/2 iCD利用許諾契約締結



- ・2016/6 相互協力協定締結
- ・2017/4 EITBOK公開



コラボレーション活動を行っている海外団体



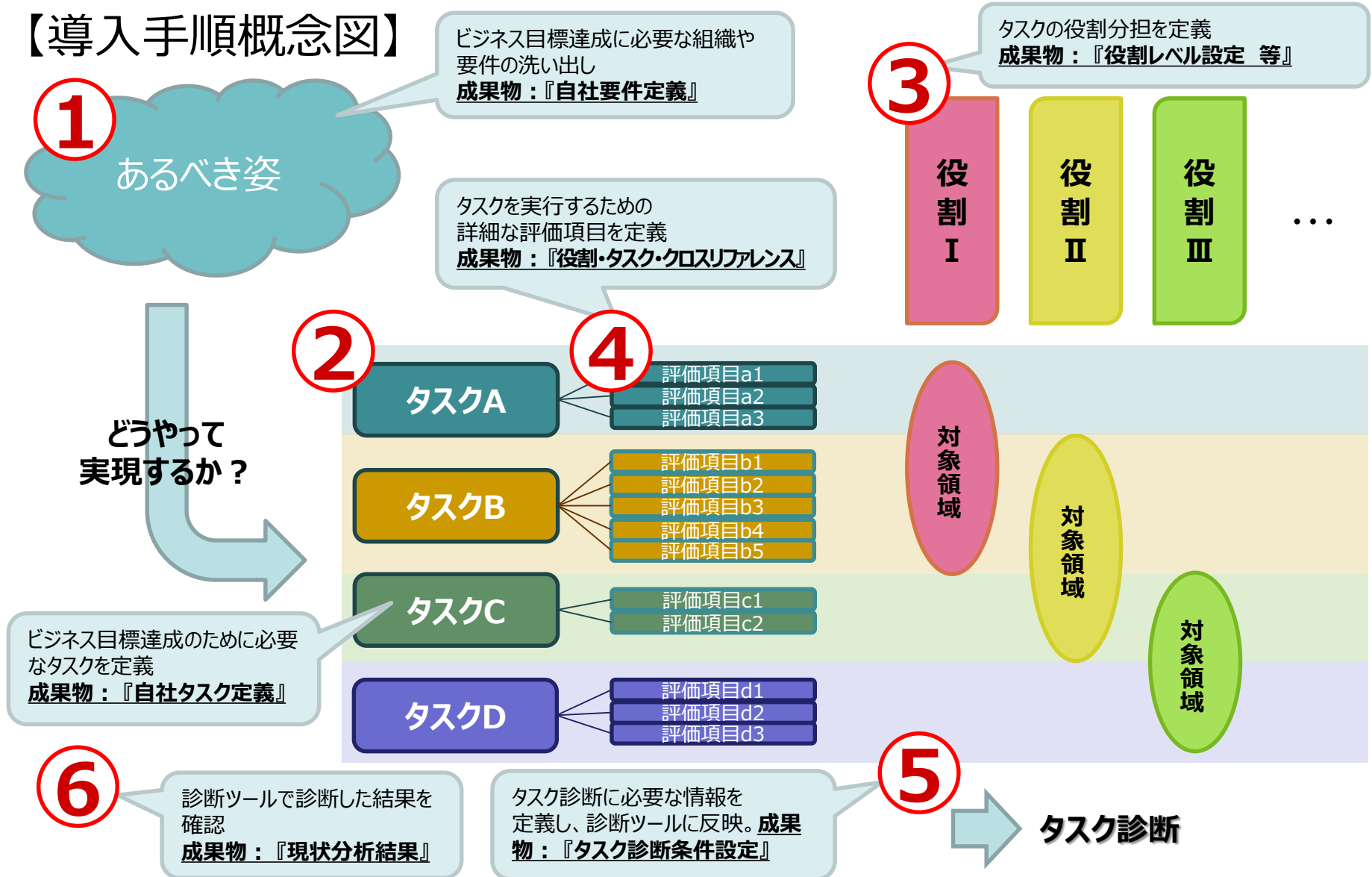
実際に使ってみていただきました！

～iCD活用ワークショップによる実証実験



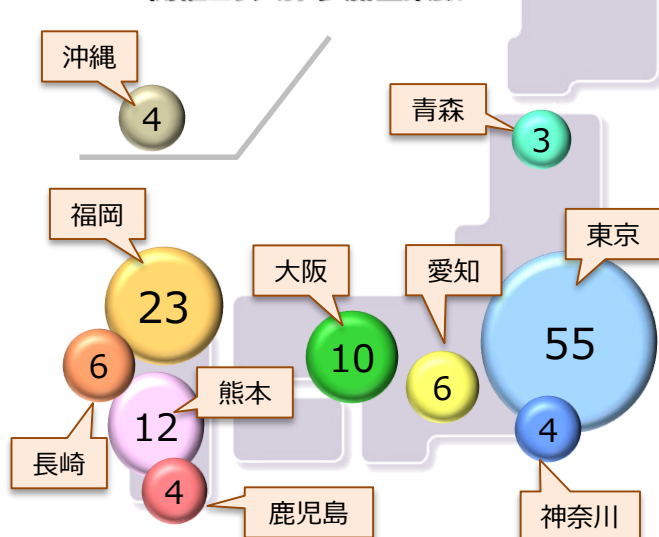
i コンピテンシ ディクショナリ活用ワークショップとは？

【導入手順概念図】

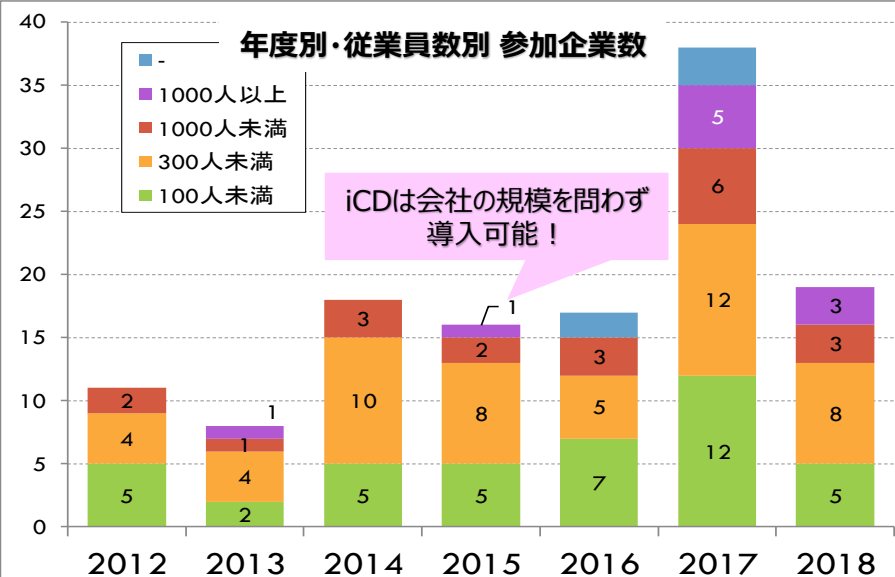


iCDワークショップ 開催実績

開催エリア別 参加企業数

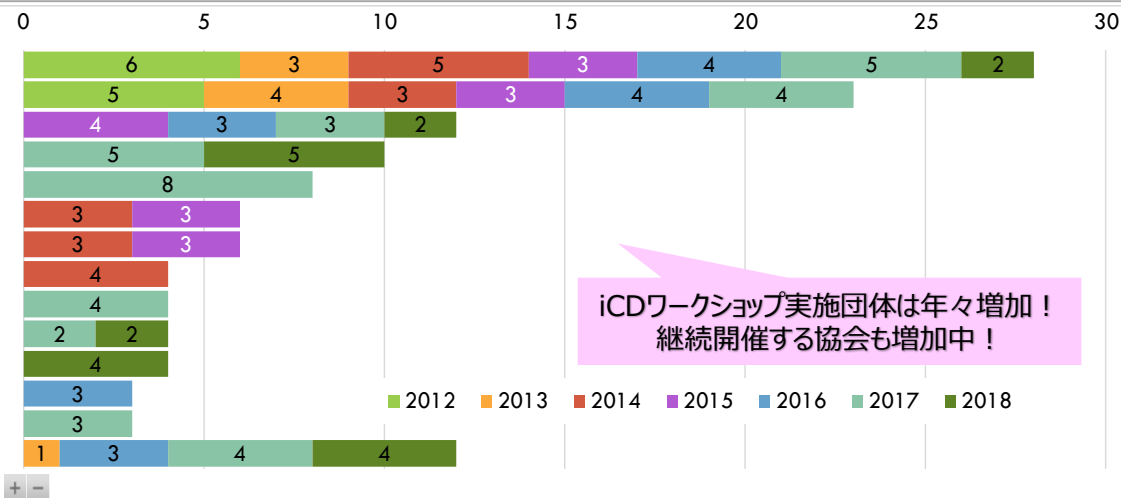


年度別・従業員数別 参加企業数



主催団体別 参加企業数

CSAJ	コンピュータソフトウェア協会
FISA	福岡県情報サービス産業協会
KISIA	熊本県情報サービス産業協会
JUAS	日本情報システム・ユーザー協会
JASA	組込みシステム技術協会
NISA	長崎県情報産業協会
AiA	愛知県情報サービス産業協会
KIA	神奈川県情報サービス産業協会
KISA	鹿児島県情報サービス産業協会
IIA	沖縄県情報産業協会
NETA	次世代エンジニア育成協会
SAA	ソフトアカデミーあおもり
KIIS	関西情報センター
iCDA	iCD協会



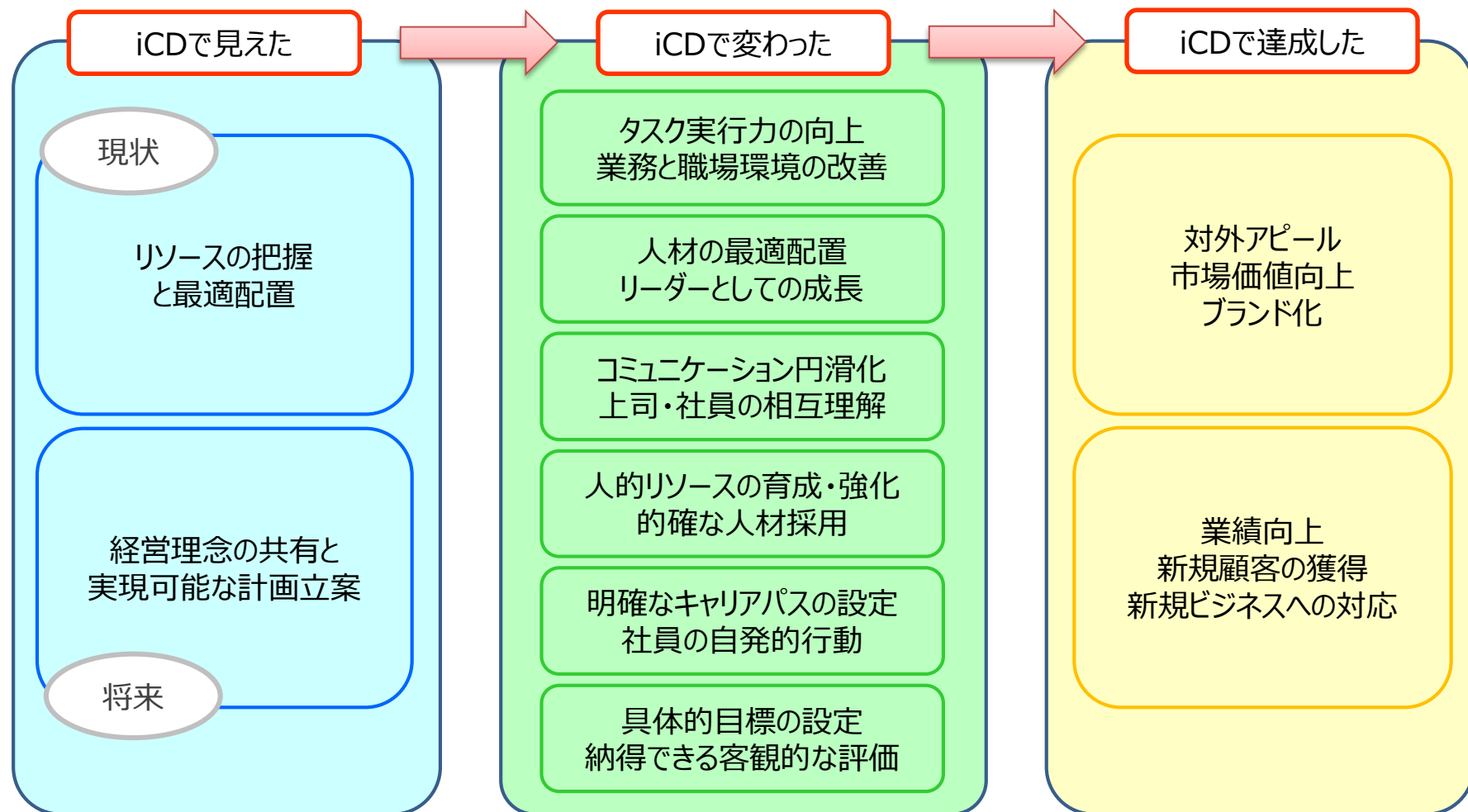
WS参加等によるiCD活用企業

協会	名称	人数	認証	WS実施年	地域
CSAJ	オープンストリーム	119	GOLD★★	2012	東京
	創研情報	83	GOLD★	2015	
	日本システム開発	150	GOLD★	2013	
	ジャパソシステム	591	Silver Plus	2014	
	大和コンピュータ	213	Silver Plus	2014	
	IPイノベーション	30	Silver	2016	
	PCソリューションズ	800	Silver	2014	
	TOKAIコミュニケーションズ	1,136	Silver	2013	
	インテリジェント ウェブ	268	Silver	2012・2014	
	インフォテック・サーブ	15	Silver	2014	
	オー・エイ・エス	252	Silver	2013・2017	
	サクサ	426	Silver	2017	
	シー・シー・ダブル	150	Silver	2017	
	システムリサーチ	820	Silver	2016	
	テクノブレーン	60	Silver	2017	
	フォーラムEイト	244	Silver	2016	
	メノクス	150	Silver	2016	
	日本ナレッジ	209	Silver	2017	
FISA	TKC	2,269		2018	福岡
	ウダ人材開発センタ	50		2018	
	A社	61		2012	
	B社	470		2015	
	C社	604		2012	
	D社	47		2012	
	E社	436		2012	
	F社	175		2015	
	TIS西日本	151	GOLD★	2015	
	テクノ・カルチャー・システム	200	GOLD★	2013	
	テクノスクエア	30	GOLD★	2012	
	ヒューマンテクノシステム	160	GOLD★	2014	
	西部ガス情報システム	154	GOLD★	2012・2016	
	FCCテクノ	179	Silver Plus	2015	
	ユニティ・ソフト	25	Silver Plus	2012	
	西日本コンピュータ	100	Silver Plus	2012	
	BCC	346	Silver	2013	
	Gcomホールディングス	460	Silver	2015	
FISA	ICTコンストラクション	50	Silver	2014	福岡
	TOTOインフォム	278	Silver	2017	
	グローバルブレイズ	80	Silver	2012	
	サン情報サービス	101	Silver	2016	
	マイクロー	53	Silver	2013・2016	
	ワイス・コンピュータ・クリエイツ	44	Silver	2017	
	九州NSソリューションズ西日本	282	Silver	2014	
	九州シー・アント・シーシステムズ	20	Silver	2016	
	西鉄情報システム	150	Silver	2017	
	日本システムステディ	70	Silver	2013	
	麻生情報ビジネス専門学校	46	Silver	2017	

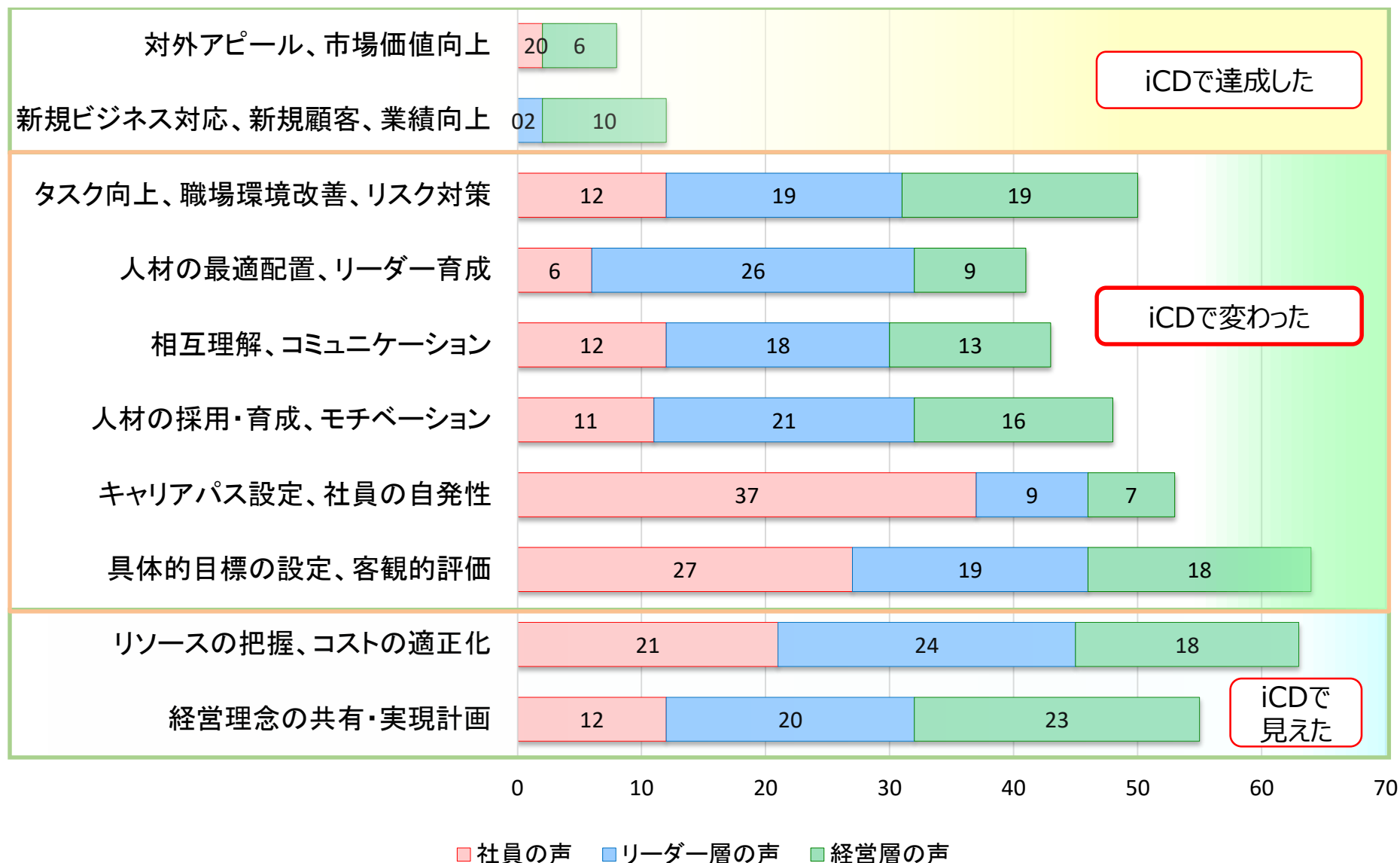
協会	名称	人数	認証	WS実施年	地域
KISA	九州ソフトス	68	GOLD★	2015	熊本
	ソフトウェアビジョン	81	Silver Plus	2015	
	マインドソフトウェア	64	Silver Plus	2015	
	熊本計算センター	215	Silver Plus	2016	
	KIS	280	Silver	2017	
	システムサイエンス	22	Silver	2016	
	ナトコンピュータ	118	Silver	2017	
	熊本ソフトウェア	20	Silver	2016	
	熊本県ソフトウェア事業協同組合	170	Silver	2017	
	電盛社	282	Silver	2015	
	日本アイティディ	160		2018	
	肥銀コンピュータサービス	108		2018	
JUAS	NHKメディアテクノロジー	1,238	Silver Plus	2017	東京
	AJS	556	Silver	2017	
	JFEシステムズ	1,535	Silver	2017・2018	
	電源開発	2,398	Silver	2017	
	テフコンシステムズ	800		2017	
	ニトリホールディングス	1,050		2018	
	ブリヂストンソフトウェア	257		2018	
	三菱ケミカルシステムズ	630		2018	
	G社	1,457		2018	
	Bee	21	Silver	2017	
	アントールシステムサポート	55	Silver	2017	
	エンベックスエデュケーション	67	Silver	2017	
JASA	コミュニケーション・テクノロジー	10	Silver	2017	東京
	システムプランニング	20	Silver	2017	
	セントラル情報センター	284	Silver	2017	
	日新システムズ	212	Silver	2017	
	日本システム開発	358	Silver	2017	
	NBC情報システム	130	Silver Plus	2015	
	オフィスメーション	73	Silver Plus	2014	
	不動産技研工業	322	Silver Plus	2014	
	NDKCOM	105	Silver	2014	
	イスマル	169	Silver	2015	
	扇精光	209	Silver	2015	
	CMC Solutions	122	GOLD★	2014	
NISA	旭情報サービス	1,404	GOLD★	2015	長崎
	サンテック	67	Silver Plus	2015	
	テクノフュージョン	18	Silver Plus	2014	
	ソフトテックス	211	Silver	2014	
	H社	166		2015	
	アイビー・エル	50	GOLD★	2014	
	ソフト	111	GOLD★	2014	
	ジェイエスピー	107	Silver Plus	2014	
	データローセサービス	107	Silver Plus	2014	

協会	名称	人数	認証	WS実施年	地域
KISA	ARS	47	Silver	2017	鹿児島
	ソフト流通センター	113	Silver	2017	
	南国システムサービス	48	Silver	2017	
	南日本情報処理センター	396	Silver	2017	
	ステーション・ビー	152	Silver	2017	
	沖縄ソフトウェアセンター	67	Silver	2017	
	ユーマーク	20		2018	
	沖縄グローバルシステムズ	123		2018	
	アクセスネット	92		2018	
	アドヴァンスト・ソフト・エンジニアリング	109		2018	
	インガルス	130		2018	
	シーシー・ネットワーク	160		2018	
NETA	サン・コンピュータ	77	Silver Plus	2016	東京
	ソフトアカデミー・あおもり	50	Silver	2016	
	青森電子計算センター	353	Silver	2016	
	クボシステムズ	557	Silver	2017	
	セイノー情報サービス	422	Silver	2017	
	i社	40		2017	
	MUS情報システム	217	GOLD★	2013	
	産業技術大学院大学	-	Silver Plus	2016	
	電子開発学園	-	Silver Plus	2016	
	SOMPOシステムズ	1,553	Silver	2017	
	リョーITソリューションズ	958	Silver	2016	
	エムエム・ネットワーク	10		2018	
iCDA	ソフトバンク	700		2018	東京
	岡三情報システム	248		2018	
	富士ゼロックスシステムサービス	1,737		2018	
	堺市	50	Silver	2017	
	大阪市	65	Silver	2017	
	大阪府	80		2017	
長崎					長崎

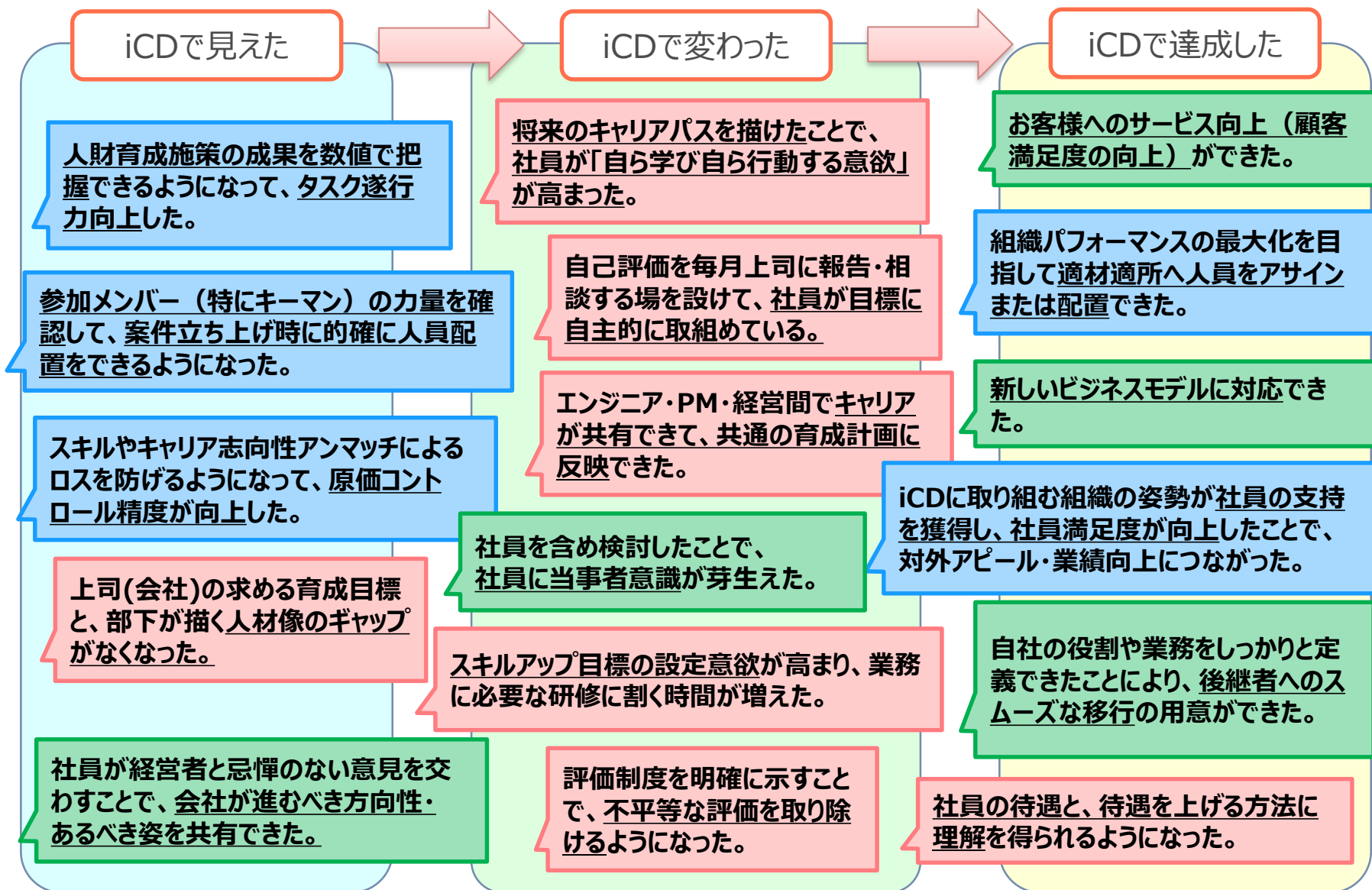
活用企業“生の声”～iCD活用で達成した10の成果



活用企業“生の声”～成果別分布(2017年)



活用企業“生の声”～実際の記述から(2017)



iCD活用企業認証の開始について

iCD活用企業認証の概要①

認証レベルのイメージ



iCD活用企業認証の概要②

「エントリー・シート」

iCD活用エントリー・シート

■企業情報

Q1. 企業情報を記入してください。

会社名：

所在地：

所属部署：

役職：

氏名：

メールアドレス：

電話番号：

Q2. iCDの活用を検討されていますか。

☐ 検討を開始している ☐ 検討を予定している ☐ 検討していない（予定もない）

Q3. 上記の質問で「検討を開始している」、「検討を予定している」とお答えいただいた方にお聞きします。

検討開始時期（予定）を記入してください。

年 月 ころ

※：IT88,UT88,ET88,CC8Fの活用を含む。

※「iCD活用エントリー・シート」は、14項目の設問に回答

「iCD活用カルテ」

iCD活用カルテ

■iCD取り組み概要

Q1. iCD活用の具体的な効果（実績）と、今後予定している効果（目標）をお聞かせください。

（記入方法については、別紙の記入例をご確認ください）

経営戦略の達成とイノベーションを呼ぶ会社組織の構築。

経営

組織

社員（個人）

自己実現と組織貢献による満足度向上。

強いチーム作りと組織ミッションの達成。

成功のあった項目（実績）

今後効果を予定している項目（目標）

<iCD活用カルテの記入方法>

1. 「効果のあった項目」は、両端で記載してください。
2. 「今後効果を予定している項目」は、片端で記載してください。
3. 効果は、「経営と組織」、「組織と個人」のように、複数の観点にわたっても構いません。
4. 上記に記載した効果項目の詳細内容については、次ページ以降に記載してください。

※1：IT88,UT88,ET88,CC8Fの活用を含む。

※「iCD活用カルテ」は、29項目の設問に回答



- アンケートにチェックいただくと、後日発行されます。
- 講演会の聴講等により、iCDについての知識があり、かつ、自社で活用したいという意向があれば、どなたでも取得可能です
- IPAが開設する「iCDオフィシャルサイト」に会社名が掲載されます（希望する場合）



- iCDを具体的に活用し始めた企業を認証します
- 所定のフォーマットの“活用カルテ”に記入し、エントリーします。
3団体の審査により、活用が認められれば発行されます。
- iCDを活用した人材育成施策の実行等、定期的な運用に入っていれば、
iCD Silver Plusとして認証されます
- IPAが開設する「iCDオフィシャルサイト」に会社名とともにiCDの活用状況
(Silverは1社1ページ、Silver Plusは1社数ページ) が掲載されます (希望する場合)



- iCDを活用し具体的な成果が出ている企業を認証します
- 所定のフォーマットの“活用カルテ”（iCD Sliverと共通）に記入し、エントリーします
3団体の審査により、成果が認められれば発行されます
- 成果の内容や、活用期間などの運用状況により、★の数が増えます
- IPAが開設する「iCDオフィシャルサイト」に会社名とともにiCDの活用状況、
成果（1社数ページ）が掲載されます（希望する場合）



iCD活用企業認証 2016/4/19プレス発表

- 「iCD (i コンピテンシ ディクショナリ) 活用企業認証制度 3団体が認証企業名を公表」

— 40以上のメディアで掲載

2018/8/1 認証企業合計 1,125社に！

認証レベル別認証企業社数 (2018年8月1日 現在)

Gold★★	4社
Gold★	27社
Silver Plus	27社
Silver	66社
Blue	1001社

iCD (i コンピテンシ ディクショナリ) 活用企業認証制度 3団体が認証企業名を公表

ツイート 反 応

GitHub 0

PR TIMES



一般社団法人コンピュータソフトウェア協会
既に461社を認証済み

一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 (略称「CSAJ」、東京都港区)、特定非営利活動法人 スキル標準ユーザー協会 (略称「SSUG」、東京都千代田区)、一般社団法人福岡県情報サービス産業協会 (略称「FISA」、福岡県福岡市) の3団体は、昨年末より開始したiCD (i コンピテンシ ディクショナリ) 活用企業認証制度における認証企業名を4月19日に公表しました。

[画像1: <http://prtimes.jp/i/13310/26/resize/d13310-26-899583-0.jpg>]

「i コンピテンシ ディクショナリ」(以下、iCD) は、独立行政法人情報処理推進機構 (略称「IPA」、東京都文京区) が、企業においてITを活用するビジネスに求められる業務と、それを支えるIT人材の能力や知識を、それぞれ「タスクディクショナリ」、「スキルディクショナリ」として体系化したものです。企業は経営戦略や事業計画など、目的に応じた人材育成の仕組み作りに活用することができます。

これまで3団体は、主に会員企業を対象としてiCDを活用した人材育成の仕組み作りの支援を行ってまいりました。支援活動の結果、iCDの高い有効性を実証することができました。今後はさらに全国に向けて普及促進を図るため、昨年12月よりiCDの活用に取り組んでいる企業を対象に「iCD活用企業認証制度」を、スタートしています。

今回公表された認証企業は、IPAの支援のもと、iCDを推進している3団体で構成された認証審査委員会により認証されています。

■ 認証レベル別認証企業社数

- ・ Gold★★ (ダブルスター) 3社
- ・ Gold★ (スター) 11社
- ・ Silver Plus 17社
- ・ Silver 29社
- ・ Blue 401社

認証企業名につきましては、以下の資料をご参照ください。

産経ニュース
2016/04/19より

iCDオフィシャルサイトの認証企業掲載ページ


超人材育成
iCDオフィシャルサイト

iCDのダウンロードは
[こちらから](#)



[iCD活用企業認定](#)
[iCDのダウンロード](#)
[iCD活用企業認定](#)
[iCD活用企業認定](#)

[ホーム](#) > [各社の取組み](#)

各社の取組み

iCD活用企業認証

iCD活用企業認証の概要

iCD活用企業認証では、企業でのiCDの活用レベルや成果の大きさに応じて認証レベルを用意しています。認証レベルは、iCD Blue、Silver、Silver Plus、Gold★、Gold★★、Gold★★★の6段階となります。



本認証制度は、

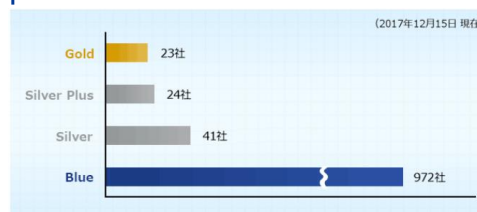
「特定非営利活動法人スキル標準ユーザ協会 (SSUG)」

「一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 (CSA)」

「一般社団法人福岡県情報サービス産業協会 (FISA)」

の3団体により運営されています。制度の詳細や認定のお申込みに関しましては、3団体のホームページにてご確認ください。

iCD活用企業認証の状況




超人材育成
iCDオフィシャルサイト

iCDのダウンロードは
[こちらから](#)



[iCD活用企業認定](#)
[iCDのダウンロード](#)
[iCD活用企業認定](#)
[iCD活用企業認定](#)

[ホーム](#) > [各社の取組み](#) > [Gold 認証企業一覧](#)

Gold 認証企業一覧

「iCD活用企業認証制度」Gold 認証企業一覧

認証取得企業・団体数：23 (2017年9月1日現在)

導入の効果の見方

視点	効果あり	効果を予定
経営	●	■
組織リーダー	●	■
社員(個人)	●	■

●または■の数は、それぞれの項目数

★★★ トリプルスター認証企業

認証取得企業・団体はありません。

★★ ダブルスター認証企業 (認証取得企業・団体数：3)

認証番号	企業・団体名称 (所在地/申請団体)	導入の効果	詳細
	サントリーステムテック/ロジ株式会社 (大阪府大阪市 / SSUG)	●●●●● ●●●●● ●●●●●	PDF
	セイコーエプソン株式会社 (長野県諏訪市 / SSUG)	●●●●● ●●●●● ●●●●●	PDF
	株式会社日本コンドクターファクトリー (神奈川県横浜市 / SSUG)	●●●●● ●●●●● ●●●●●	PDF

(上記以外の非公開：0社)

IPAオフィシャルサイト > 各社の取組み
<https://icd.ipa.go.jp/icd/company>

i コンピテンシ ディクショナリに関する情報

iCD2018での主な変更点

「iCD2018」の主な変更点

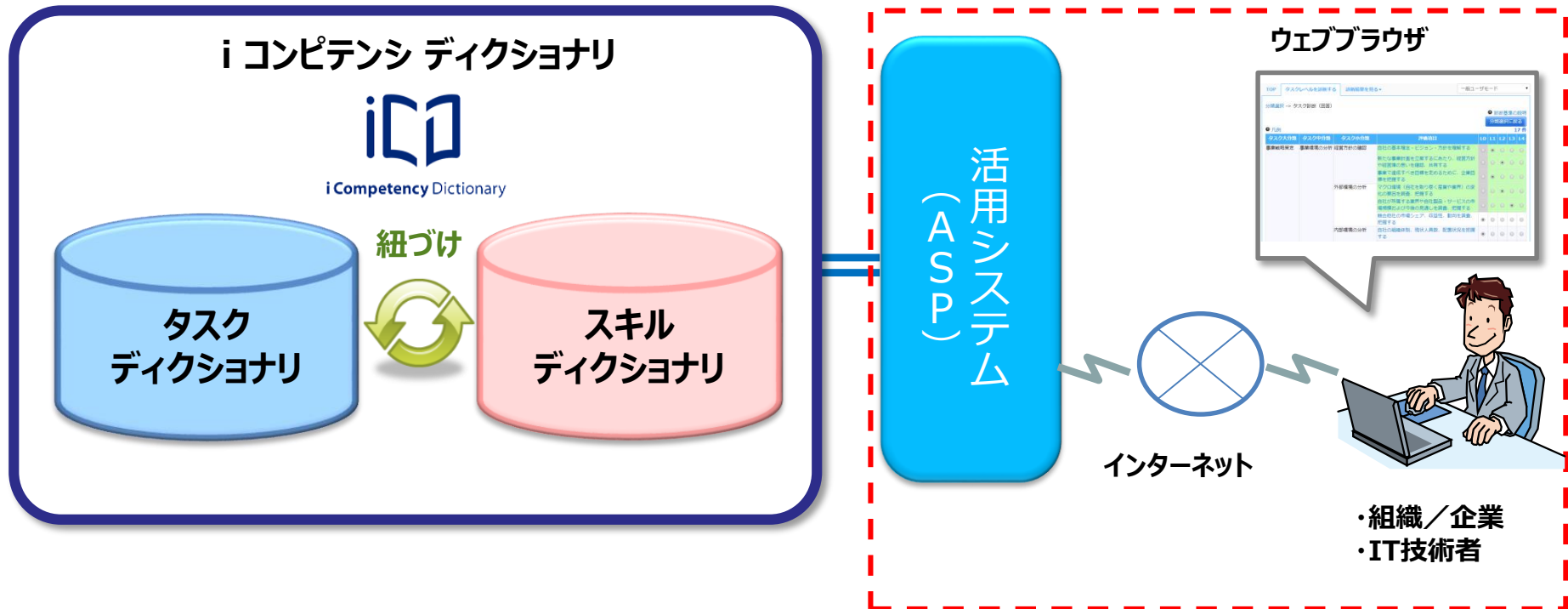
<タスクディクショナリ>

項 目	変更点	変更理由
データマネジメント	追加	ITABoK Version2に対応
システム企画立案	強化	SEC BOOKS「 ユーザのための要件定義ガイド 」、 「 システム再構築を成功に導くユーザガイド 」に対応
IoTシステム・サービスのライフサイクル	強化	セーフティに関する対応
ハードウェア・ソフトウェア製品導入	強化	ソフトウェアの活用支援に関する対応
プロジェクトマネジメント	強化	PMBOK ガイド第6版に対応

<スキルディクショナリ>

項 目	変更点	変更理由
IT アーキテクチャに係るスキル	強化	ITABoK Version2に対応
プロジェクトマネジメント手法	強化	PMBOK ガイド第6版に対応
スキル項目・知識項目	整理	スキル項目分割・類似知識項目の整理

◇ 企業の目的に応じた人材育成に利用できる「iCD活用システム」



iCDに関するポータルサイト「iCDオフィシャルサイト」

iCDに関する情報を集約したサイト

IT人材育成に関する最新動向やセミナー
情報も掲載

掲載情報

iCD初心者向けの説明や活用方法
実際に活用している企業の事例
iCDと連係した研修・資格情報
iCD活用企業認証制度の紹介
イベント・セミナー情報
などなど

iCD 超人材育成
iCDオフィシャルサイト

<https://icd.ipa.go.jp>

iCDでレベルを上げるときに、必要な研修・資格等が検索可能

～ 研修、書籍、資格とタスク・スキルとの関係情報を提供

iCD活用システム

- タスクやスキルを選択すると、紐づく研修・書籍・資格を表示
- 研修・書籍・資格の情報が検索可能

システム企画立案 > 情報セキュリティ要件定義 > 情報セキュリティ要件の定義				
タスク大分類	タスク中分類	タスク小分類	評価項目	診断メ モ
システム企画立案	情報セキュリティ要件定義	情報セキュリティ要件の定義	セキュリティポリシーやコンプライアンス、情報保証上の必要性を情報セキュリティ要件に反映させる	L0:
			実装すべき情報セキュリティの要件（障害発生時の復旧時間の許容時間、データ復旧範囲等、障害対応に関する要件を含む）、実施レベル、考慮点等を明らかにする	L0:
			各々の情報セキュリティ要件に対する実装方法を提示する	L0:
			情報セキュリティ要件を実現するための費用を算出する	L0:
			システムに存在する脆弱性について、その対策と緩和のための取り組みの方針を決定する（アプリケーションの可用性維持からパッチを適用しない場合の対策等を含む）	L0:
			情報セキュリティ要件に関する制約事項を抽出する	L0:
タスク大分類	タスク中分類	タスク小分類	評価項目	診断メ モ
▼関連研修・書籍情報				
※（ ）で表記したレベルは、上位（タスク中分類）での評価を示す。				
主催	名称	研修・書籍レベル	区分	詳細
株式会社アイテック				
株式会社インフォテック・サーブ				
株式会社ウチダ人材開発センター				
株式会社日立インフォメーションアカデミー				
株式会社富士通ラーニングメディア				
▼関連資格情報				
※（ ）で表記したレベルは、上位（タスク中分類）での評価を示す。				
主催	名称	資格レベル	区分	詳細
独立行政法人情報処理推進機構				
株式会社サーティファイ				

iCDオフィシャルサイト

- タスクやスキルと、研修・書籍・資格との関係情報が検索可能

研修・書籍・資格との関係

iCDとは

- > iCDは辞書
- > タスクディクショナリ
- > スキルディクショナリ
- > iCDの使い方
- > iCD活用システム
- > 研修・書籍・資格との関係
- > 3スキル標準とiCD
- > ダウンロード

最新情報公開中！
iCDに関する情報をお伝えします。

おすすめコンテンツのご案内

説明会開催

iCDはさまざまな研修・書籍・資格と関係

iCDは、研修・資格事業者の協力のもと、関係情報を提供しています。関係情報では、「研修を受講する」「資格を取得する」などにおいて、iCDのどのタスクやスキルのレベルアップが期待できるかを知ることができます。

タスクから検索

タスクプロフィールから検索

スキルディクショナリから関係情報を参照する

スキルから検索

職種から検索

Copyright 2018 © All rights reserved, iCD Association

出典：IPA作成講演資料 43

iCDと研修・資格との関係情報提供

i コンピテンシ ディクショナリ 2017 研修・書籍・資格関係情報 提供事業者一覧（2017/06/20）

提供事業者名	研修	書籍	資格
独立行政法人情報処理推進機構	－	一般書籍、論文・報告書	国家資格・認定
アイスタディ株式会社	eラーニング	－	－
株式会社アイテック	集合研修、eラーニング、 資格・認定対策研修	一般書籍、テキスト・教材	－
麻生教育サービス株式会社	集合研修	－	－
株式会社インフォテック・サーブ	集合研修	一般書籍	－
株式会社ウチダ人材開発センタ	集合研修、eラーニング	一般書籍、テキスト・教材	－
株式会社サーティファイ	－	－	その他の資格・認定
株式会社NOWVILLAGE	集合研修	－	－
株式会社日立インフォメーションアカデミー	集合研修、eラーニング	－	－
株式会社福岡ソフトウェアセンター	集合研修	－	－
株式会社富士通ラーニングメディア	集合研修、eラーニング	－	－
JSTQB	－	－	その他の資格・認定
株式会社アシスト	集合研修	一般書籍、テキスト・教材	－
芝大門塾／株式会社 東芝OAコンサルタント	集合研修	－	－
NECマネジメントパートナー株式会社	集合研修、eラーニング	－	－
一般社団法人 組込みシステム技術協会	－	－	その他の資格・認定
株式会社ワープ・スタイル	eラーニング	－	－

※iCD2017公開以降、以下の2事業者を追加
株式会社ジェイテックスマネジメントセンター、一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会

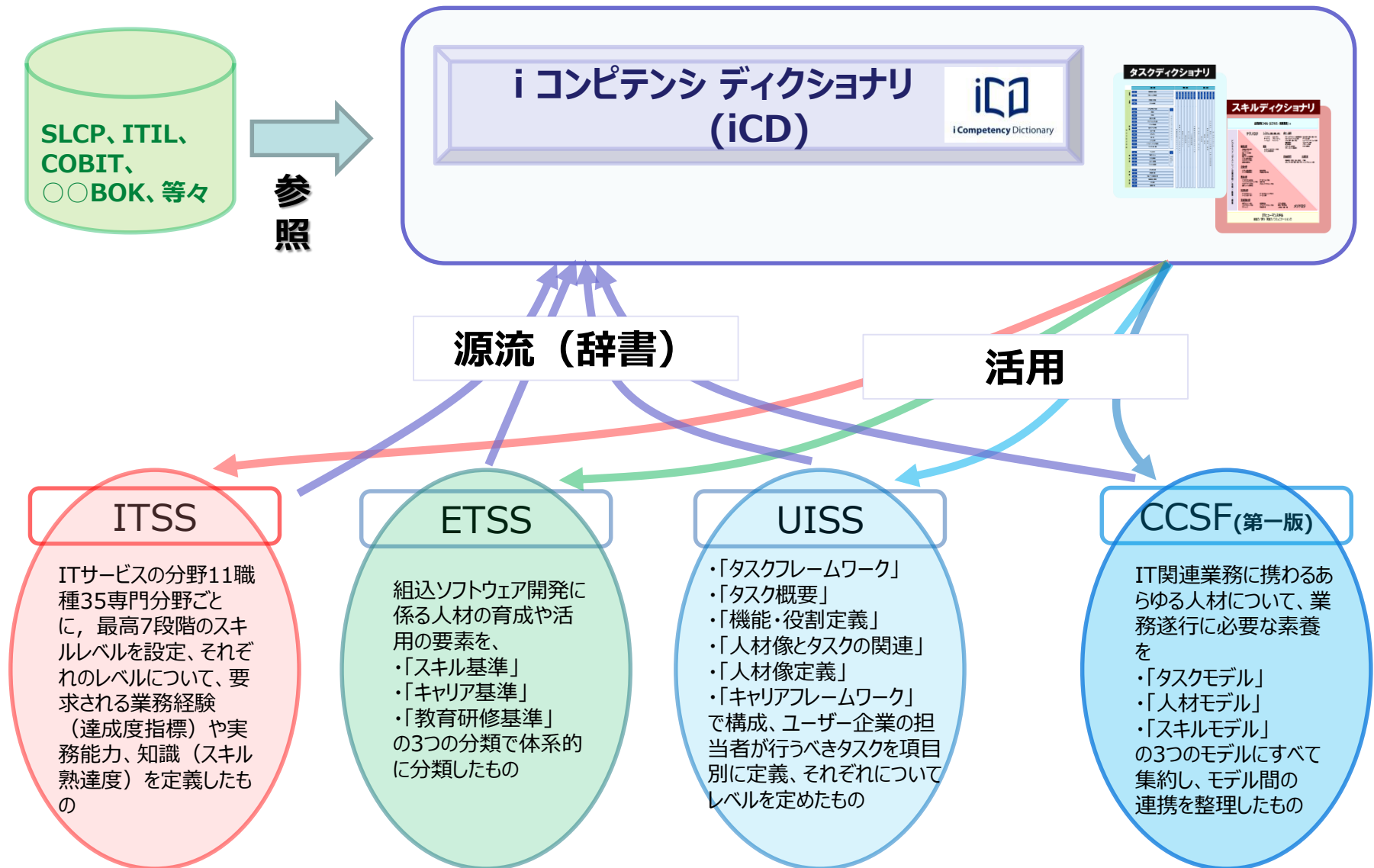
iCD ダウンロード可能な情報

- iCDオフィシャルサイト、IPAサイトよりダウンロード可能です
 - － ディクショナリ
 - タスクディクショナリ、スキルディクショナリ
 - － ディクショナリ利用を補助するツール
 - タスクプロフィール、タスクプロフィール×タスク対応表、タスク評価の診断基準例
 - 職種一覧、職種×スキル対応表、スキル熟達度判定基準
 - 情報処理技術者試験等×スキル対応表
 - － 関係情報
 - ディクショナリ間関係（タスク×スキル対応表）
 - － 使い方
 - 解説書
 - － CSVデータ
 - データセット
 - － 人材別タスク・スキル
 - IT融合人材、情報セキュリティ人材
 - 営業業務、総務・人事・経理、エデュケーション
 - コールセンター、IoTシステム・サービスのライフサイクル
 - セキュリティ領域、データサイエンス領域
 - － 英訳版
 - タスクディクショナリ（第2階層まで）、スキルディクショナリ（第2階層まで）
 - － iCDロゴ、iCD-FAQ、研修・書籍・資格との関係情報に関するガイドライン

※以下はお申し込みにて利用できます。
「iCD活用システム（タスク編）」
「iCD活用システム（スキル編）」
iCD活用システム（ダウンロード版）
「英訳版（第4階層まで）」

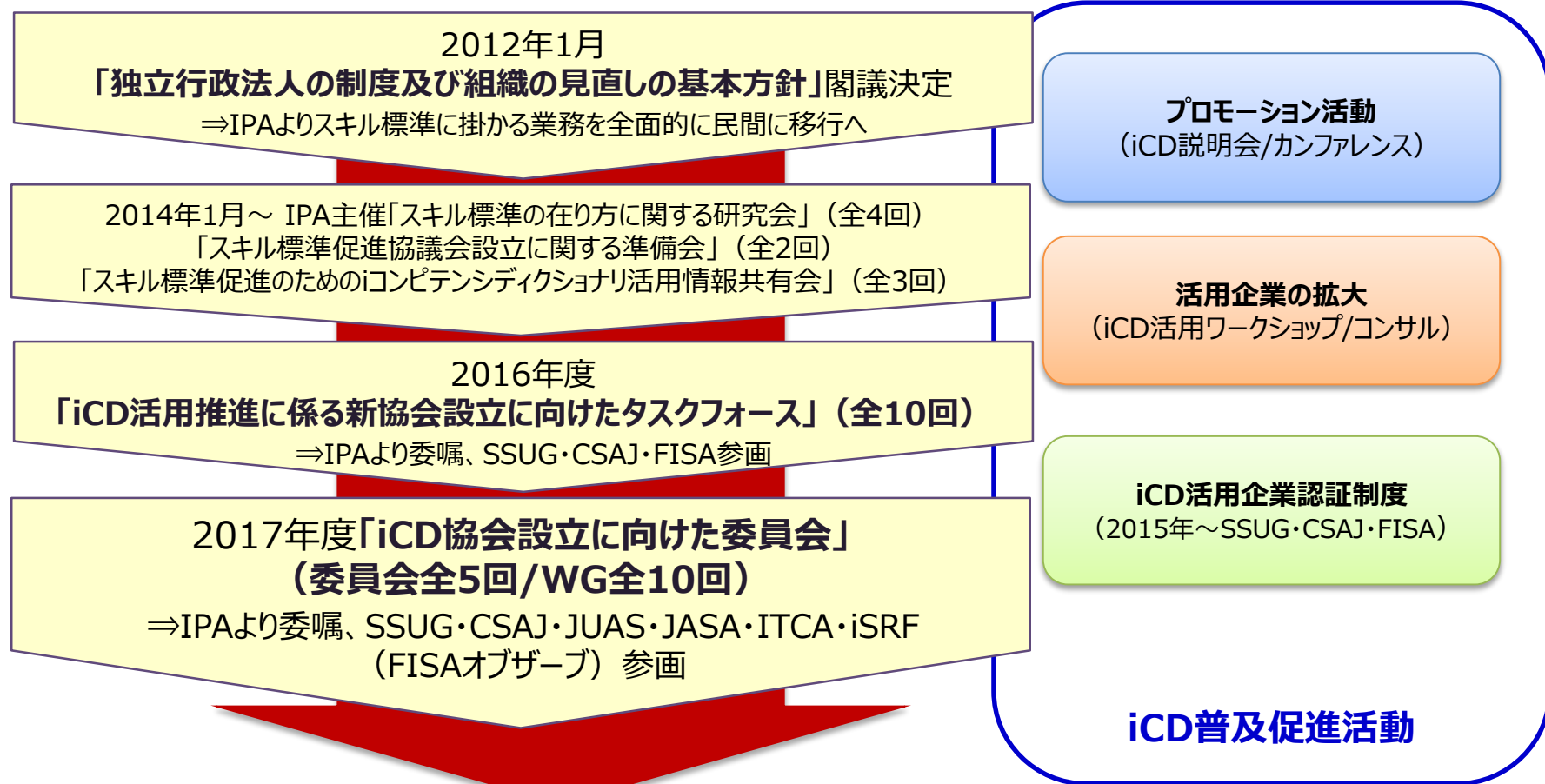
英訳版
iCD2016対応
2017/4/12 公開！

CCSF追補版との比較

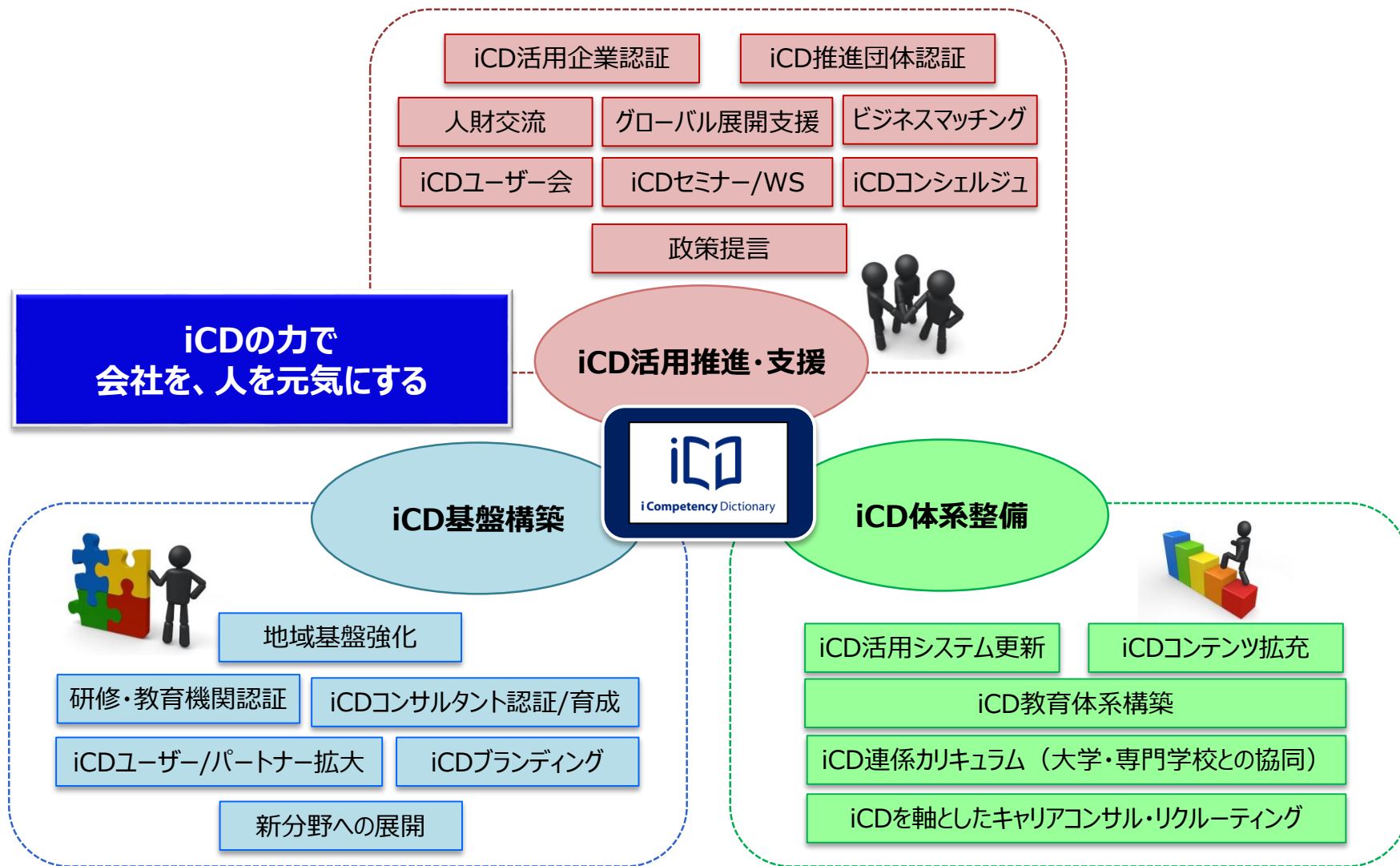


iCD協会について

iCD協会設立の経緯



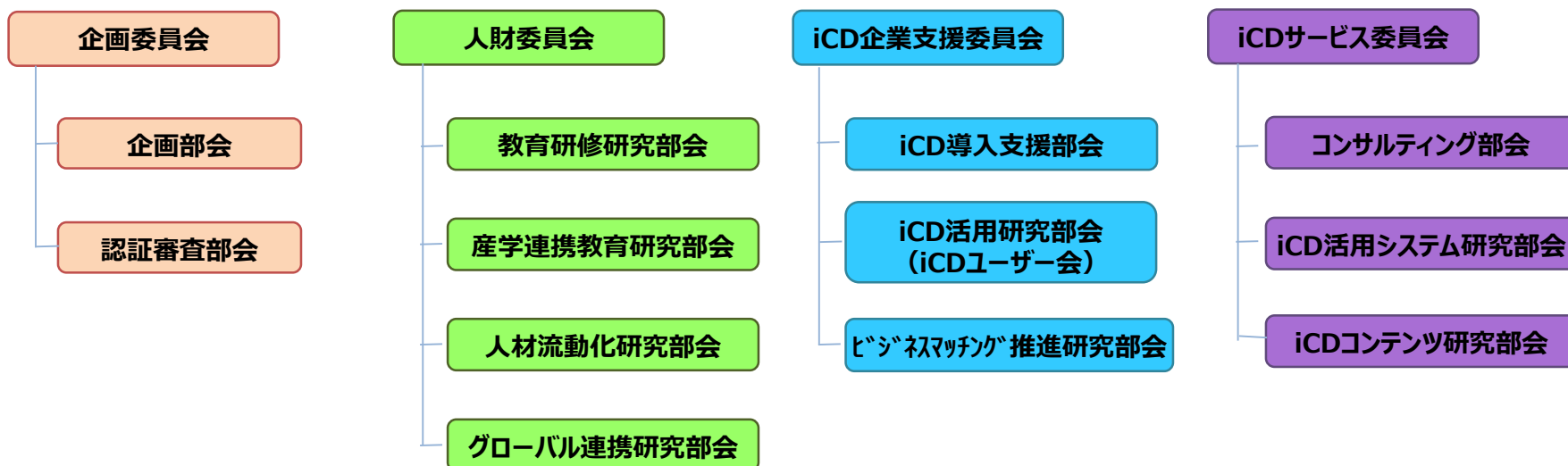
一般社団法人iCD協会
2018年2月1日 設立登記
2018年4月1日 活動開始



活動内容（案）

【コンセプト】

4つの委員会運営を柱に事業の展開を図る

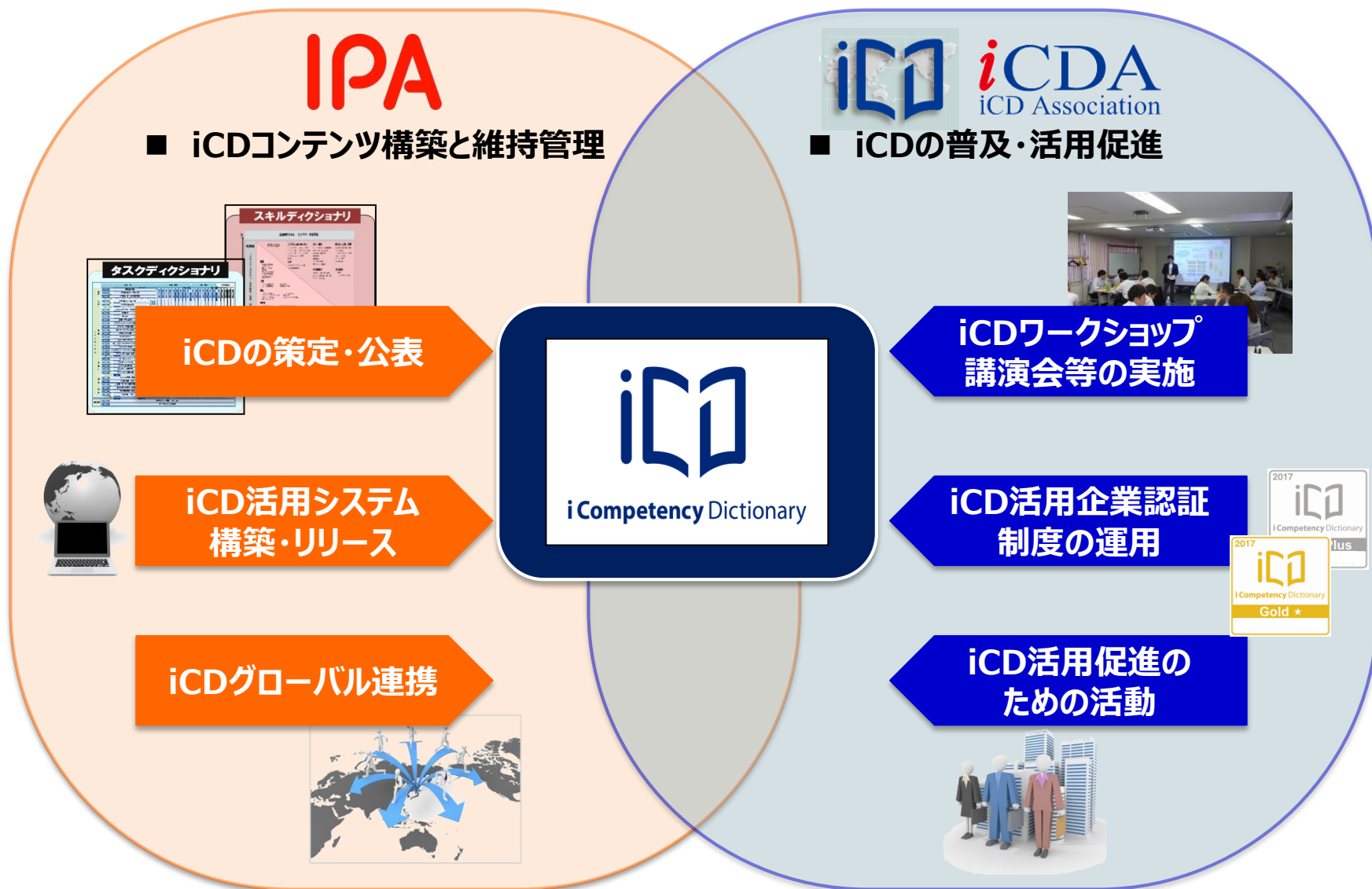


企画運営と認証活動
…企画委員会中心

iCDユーザーの拡大と地域貢献
…iCD企業支援委員会中心

新規事業の創出
…人財委員会中心

ユーザーサービスの充実
…iCDサービス委員会中心



ご清聴ありがとうございました

お問い合わせ：

一般社団法人iCD協会

iCD Association



URL : <https://www.icda.or.jp/>

E-mail : icda-info@icda.or.jp

TEL : 03-4530-6226

- IPA **iCDオフィシャルサイト**
URL : <http://icd.ipa.go.jp/icd/>